

多様な関係者が連携して進める鉄道沿線まちづくりへの期待



大阪公立大学

大阪公立大学大学院 工学研究科
教授 嘉名 光市

自己紹介

嘉名 光市（かな こういち）

大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 教授

博士（工学）、一級建築士。技術士（都市及び地方計画）

1968年大阪府河内長野市生まれ。大阪府立生野高等学校卒業。

東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程修了（景観研究）。

シンクタンク勤務ののち、大阪市立大学大学院講師、准教授、教授を経て現職。

専門は都市計画、都市再生デザイン、景観論、エリアマネジメント。

大阪市都市景観委員会委員長、大阪府国土利用計画審議会会長、神戸市都市計画審議会、京都市美観風致審議会、堺市都市計画審議会会長、和泉市都市計画審議会会長、河内長野市都市計画審議会副会長、橿原市都市計画審議会、デザイン都市神戸創造会議など 京阪神での都市計画・都市デザインに参画

水都大阪、御堂筋景観ルールの策定および空間再編監修、中之島広場、大阪版BID条例をはじめ、都市再生のための公共空間デザイン・マネジメントを実践するプロジェクト計画立案、制度設計、社会実験を数多く実践。

2015年度 日本都市計画学会石川賞（水都大阪のまちづくり）（共同）

2017年 日本建築学会賞（業績）（大阪市「生きた建築ミュージアム事業」による建築文化の振興）（共同）

主な著書に「生きた景観マネジメント」（鹿島出版会）、「図説 都市計画」（学芸出版社），「都市を変える水辺アクション 実践ガイド」（学芸出版社）、「生活景」（学芸出版社）、「景観再考」（鹿島出版会）、「生きた建築 大阪」（140B）、「景観計画の実践」（森北出版）ほか。

水都大阪が めざすこと

「大阪が好きだから」と言ってもらえるように、まちの魅力を発信し、広く知ってもらうとともに、地域や企業など人々が活躍できる都市をめざします。

大阪では、市民・地域・大学・企業・経済界・行政などが一緒に「水と光のまちづくり」を進めています

都市
ブランド
醸成

水辺の
環境整備

都市
デザイン

地域資源の
活用

パートナ
シップ

サポーターの
育成

新しい
ルール
づくり





てんしば（天王寺公園エントランスゾーン）





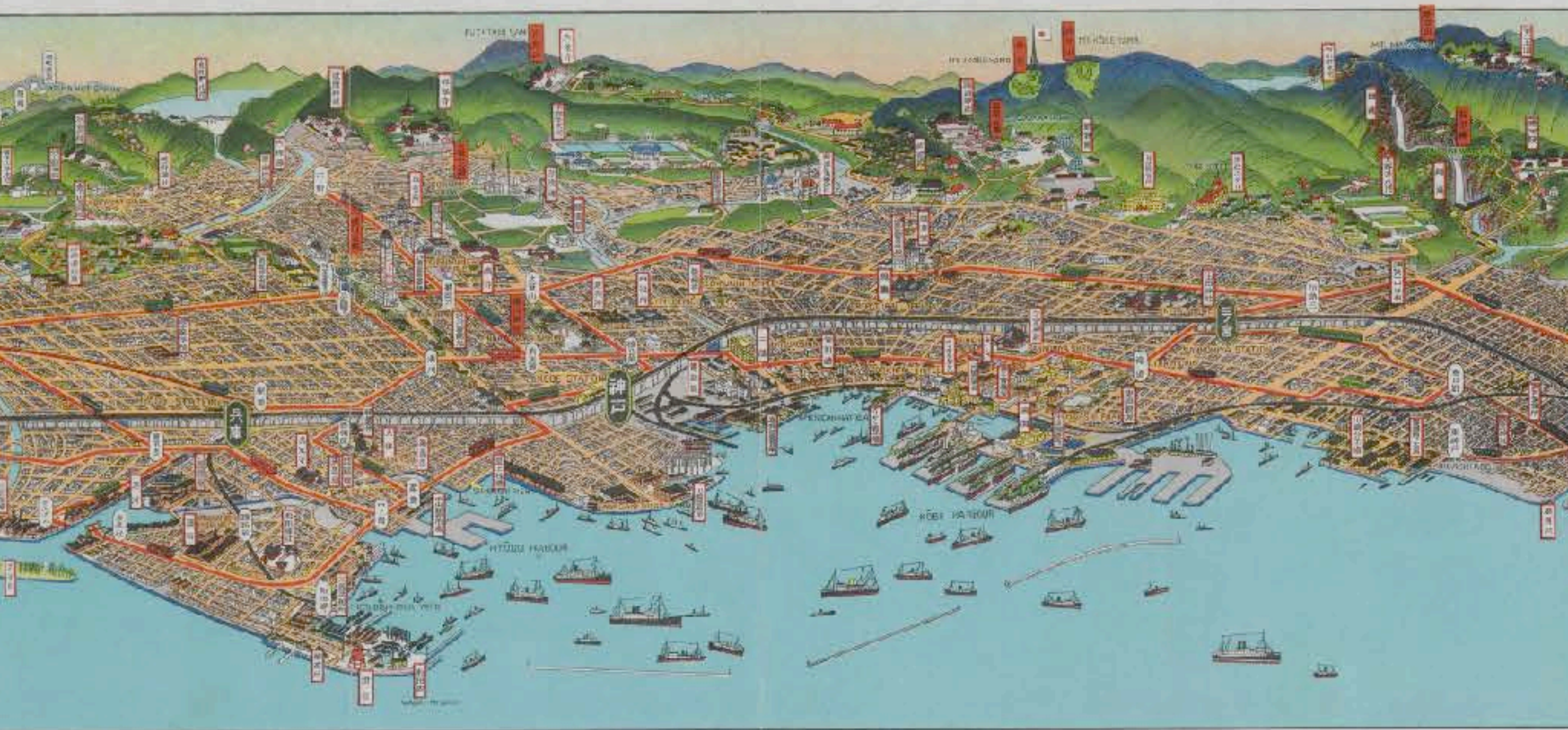


御堂筋チャレンジ2022

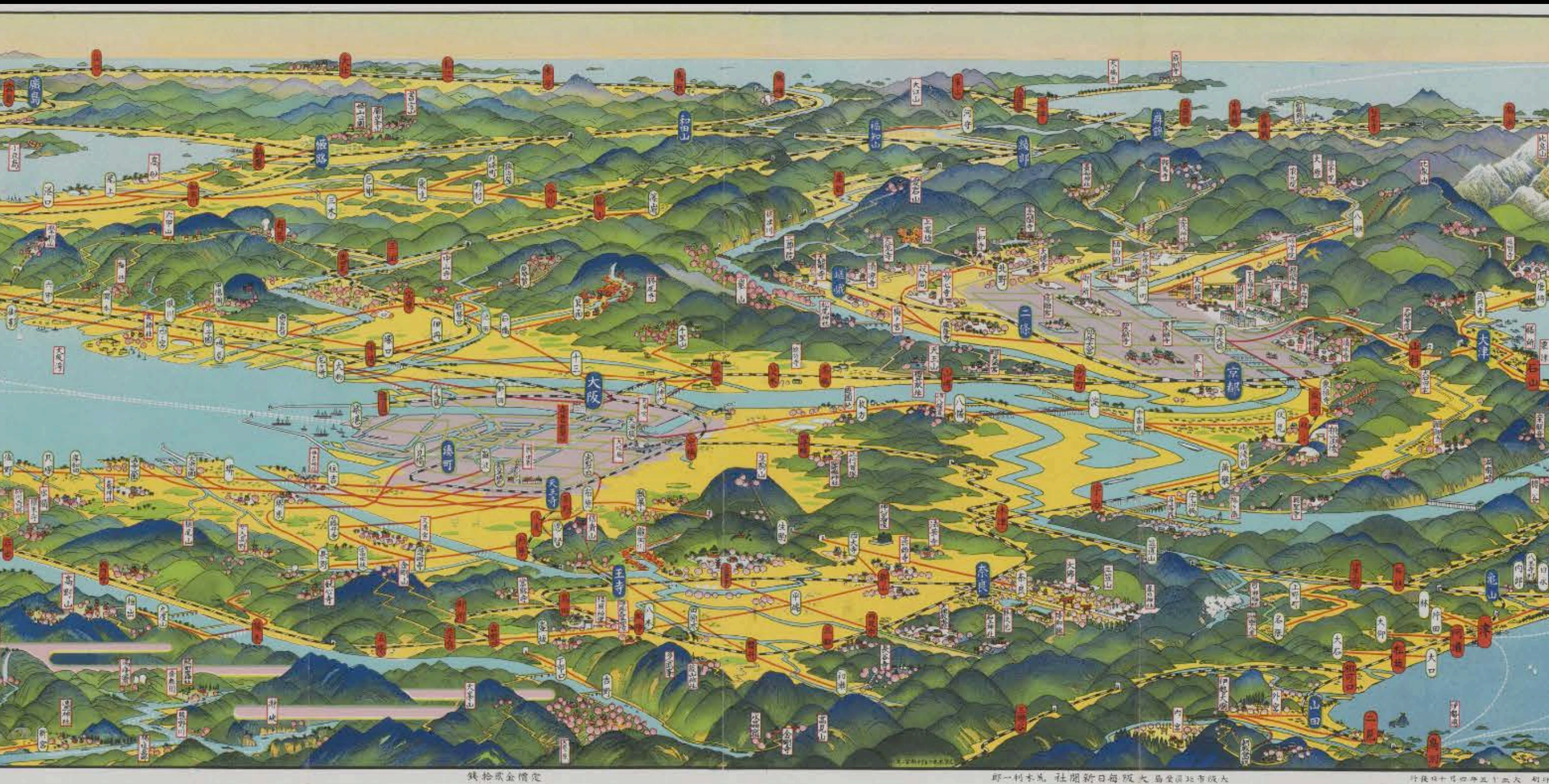
多様な関係者が連携して進める鉄道沿線まちづくりへの期待



武庫連山海陸古覧（部分）
若林秀岳 画（神戸市立中央図書館 蔵）



神戸 大神戸市を中心とする名所鳥瞰図（部分）（1930）
吉田初三郎 画



近畿を中心とせる名勝交通大鳥瞰図（部分）（1926）
吉田初三郎 画

神戸
Kobe

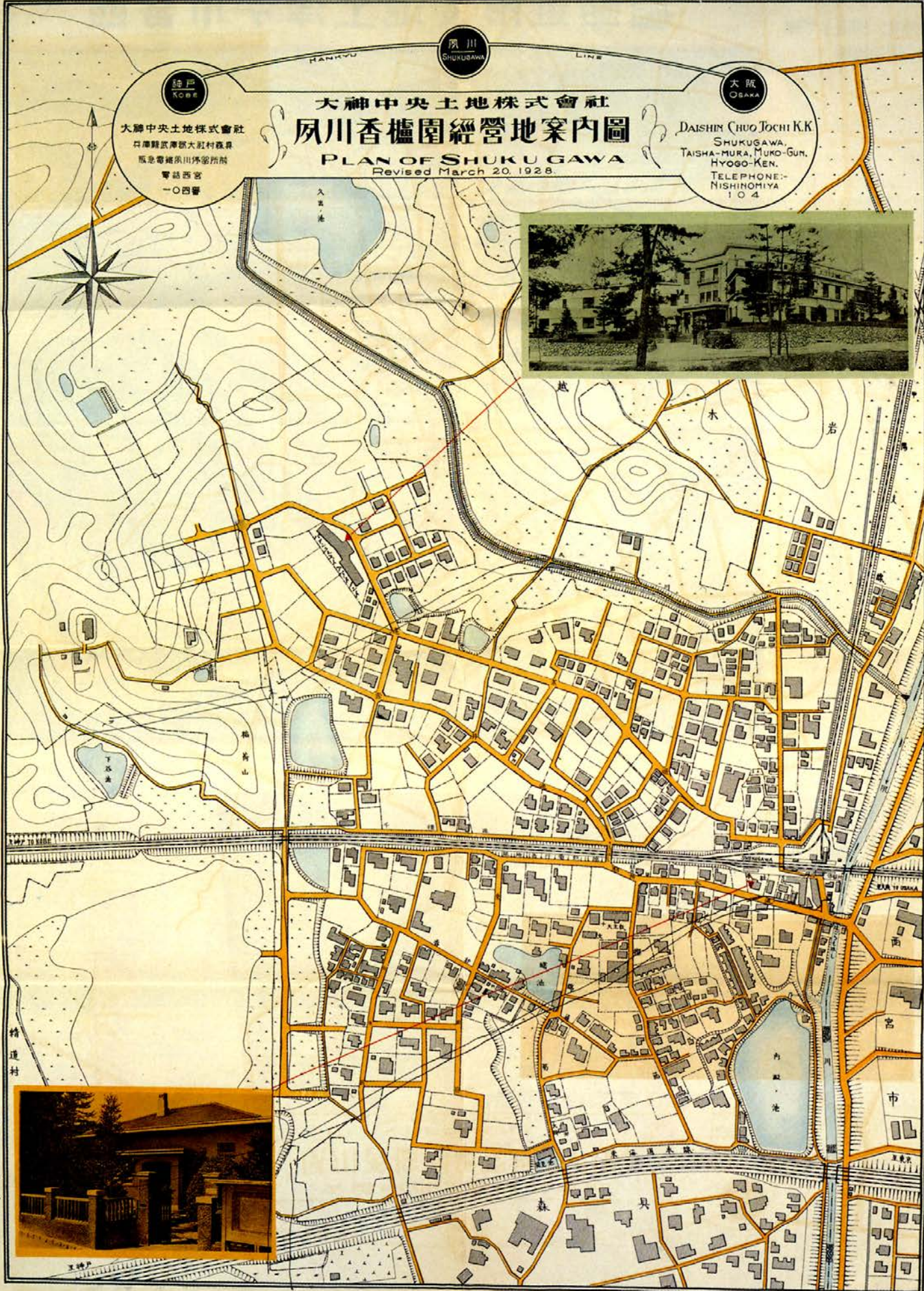
夙川
SHUKUGAWA

大阪
Osaka

大勝中央土地株式會社
兵庫縣武庫川郡大野村森島
阪急電鐵夙川外宿所前
電話西宮
一〇四番

大勝中央土地株式會社
夙川香櫨園經營地案内圖
PLAN OF SHUKUGAWA
Revised March 20, 1928

DAISHIN CHUO TOCHI K.K.
SHUKUGAWA,
TAISHA-MURA, MUKO-GUN,
HYOGO-KEN.
TELEPHONE:-
NISHINOMIYA
104



昭和六年五月

理想的宅地
價格低廉
交通至便
空氣清淨

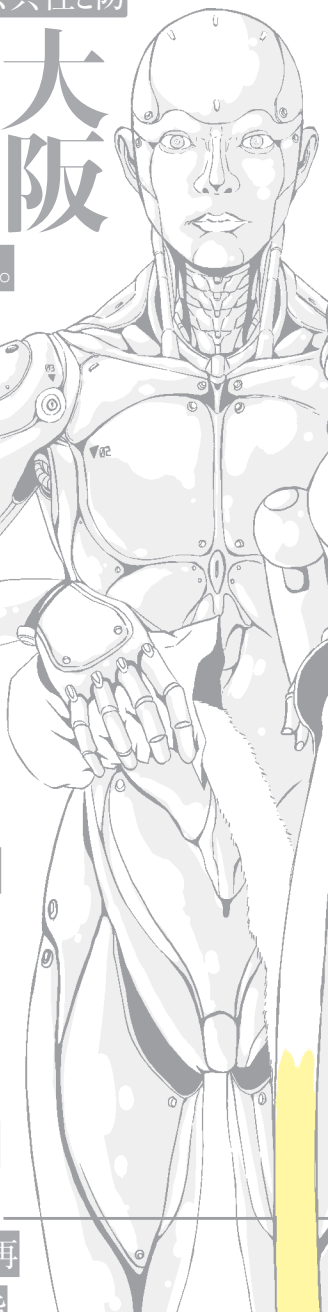
特集 大阪から考える都市再生の現在 水都・インバウンド・ジェントリフィケーション

Considering Current Urban Regeneration from OSAKA –
43 Aqua Police, Inbound and Gentrification

全文—p.002

高度経済成長が一段落して新たな社会経済情勢の変化を迎えるにあたって、2002年に都市再生特別措置法が制定された。都市機能の高度化と都市居住環境の向上を図るこの法律の適用により、東京を中心に多くの大都市で都市再生事業が実装されてきた。各々の事業区域において複合的な開発が進み、公開空地の確保や狭隘な道路の拡幅による都市の公共性と防災性の向上、低未利用地の利活用による新たな価値創造などの一定の成果が現れてきている。

本特集で取り上げる大阪では各事業区域での成果に加えて、21世紀に入ってから「水都大阪」を大きな都市再生ビジョンとして掲げ、公共による親水空間の整備事業やそれと連動した民間によるにぎわい創出事業が展開されている。さらに大阪都心内部では、都市再生緊急整備地域が



特集 万博から考える関西の未来 大阪の役割・可能性を構想する

Considering Future Perspective of Kansai Region
44 from World Expo in 2025 – Role and Possibility of OSAKA

全文—p.020

20世紀において、国家の開発力や国威を発信する場として少なからず活用されてきた「万国博覧会(以下、万博)」は、21世紀最初の愛知万博以降、人類が共有する全地球的な課題に対する対応策を提示する理念提唱の場へと移行している。2025年に開催が決定した大阪・関西万博では、その標語を「いのち輝く未来社会のデザイン」と銘打ち、国内外から医療・健康、自動走行、ロボットなどの新技術の投資を呼び込み、臨海部の夢洲を主会場とした未来社会の実験が行われる予定である。

主会場である夢洲は、1988年に策定された大阪市の「テクノポート大阪」計画に基づいて、大阪ベイエリアの新都心としての役割が期待されていた人工島であるが、1990年代以降のバブル崩壊に伴い、長きにわたり未利用の状態が続いていた。2008年に夏季五輪の誘致に取り組むもののその誘致活動は実現

せず、2009年以降「テクノポート大阪」構想は道

万博 10

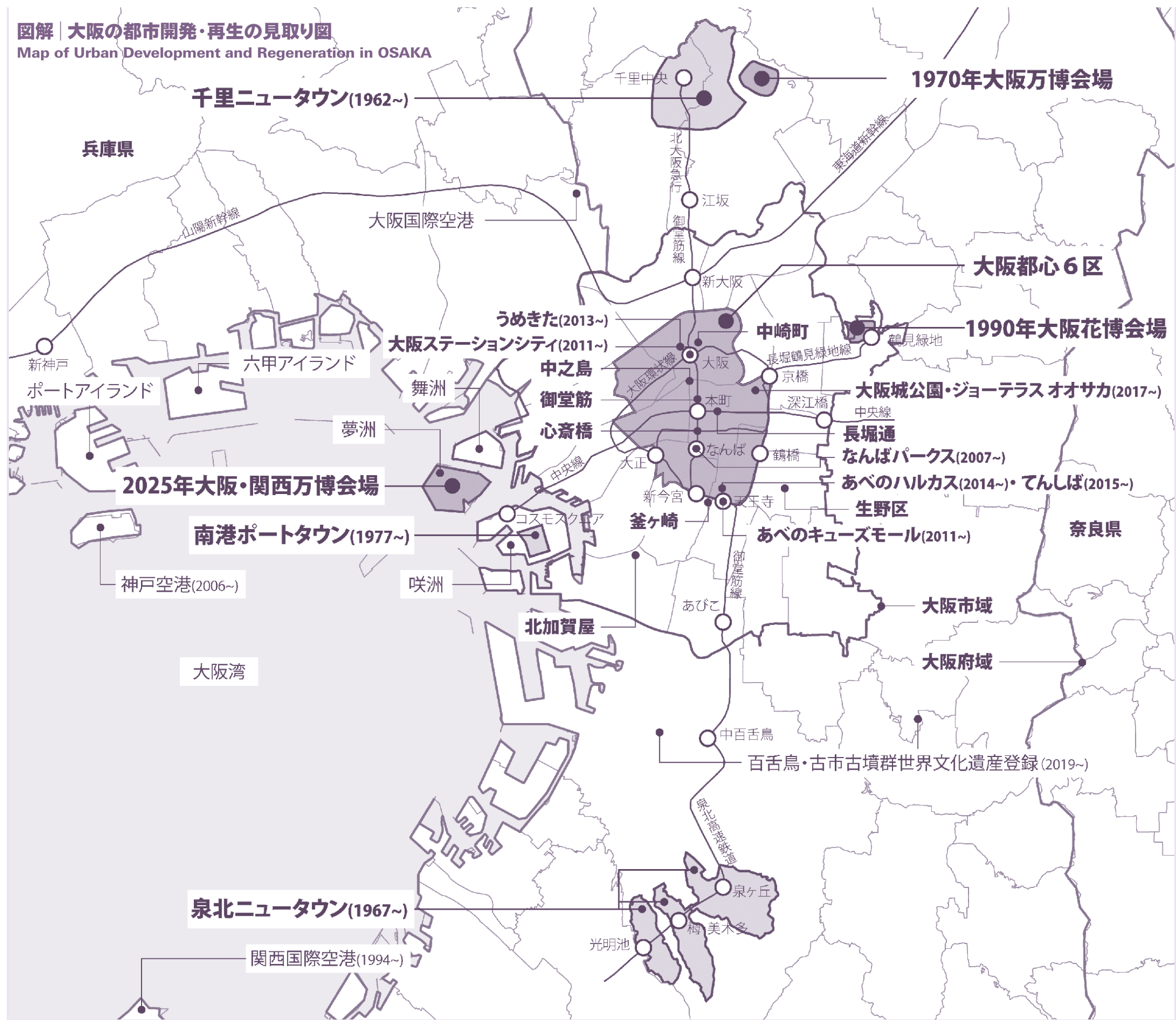
建築雑誌



建築漫画

タネの都

漫画——木下いたる[漫画家] 1988年山梨県生まれ。東京都在住。サンフランシスコ州立大学映画科学士課程修了。講談社コミックDAYSにて「ギガントを撃て」を連載。(既刊3巻)
解説——「水都大阪」、その水をたこ焼きの「タネ」に例えてみよう。大阪の未来を担うタネは「官(粉)」だけでは柔軟性がなく「民(出汁)」だけではまともでない。両者の絶妙なブレンドによる開発が求められている。その一方、流入するタネの波によって窪みに住み着く人々が押し出されてしまうジェントリフィケーションの問題も忘れてはならない。いま、ひとつひとつのスポットはおいしく焼き上がり始めている。これから「マチナカ万博」を契機として、たこ焼きからお好み焼きのような面的な展開がなされれば、あらゆる人種・あらゆる階層が持続的に混在できる魅力的な大都市が実現されるだろう。[松島潤平]



1970年大阪万博

人類の進歩と調和

郊外ニュータウン

新都市

(都心改造)

1990年大阪花博

自然と人間との共生

花と緑のまちづくり

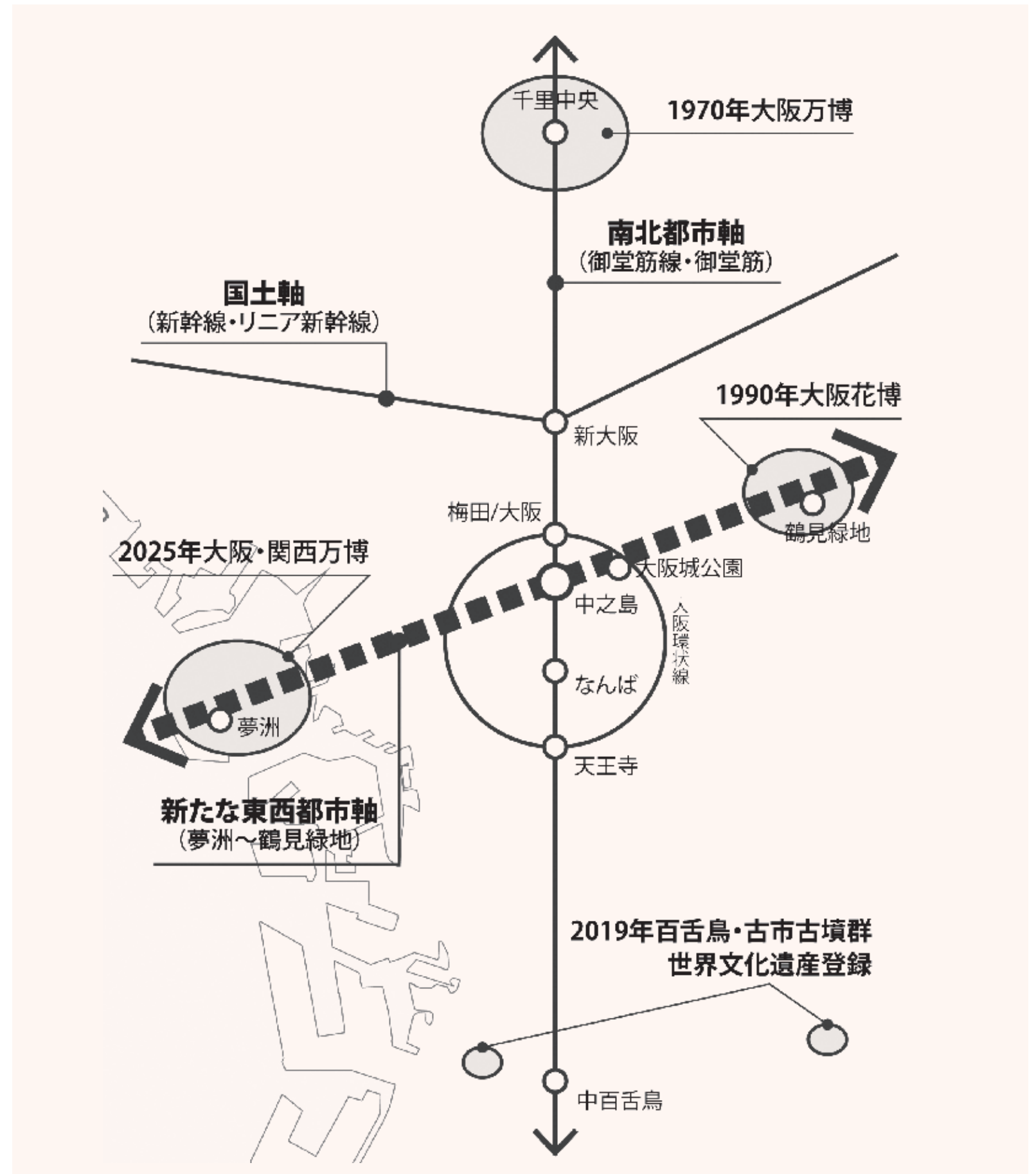
2025年大阪・関西万博

いのち輝く未来社会のデザイン

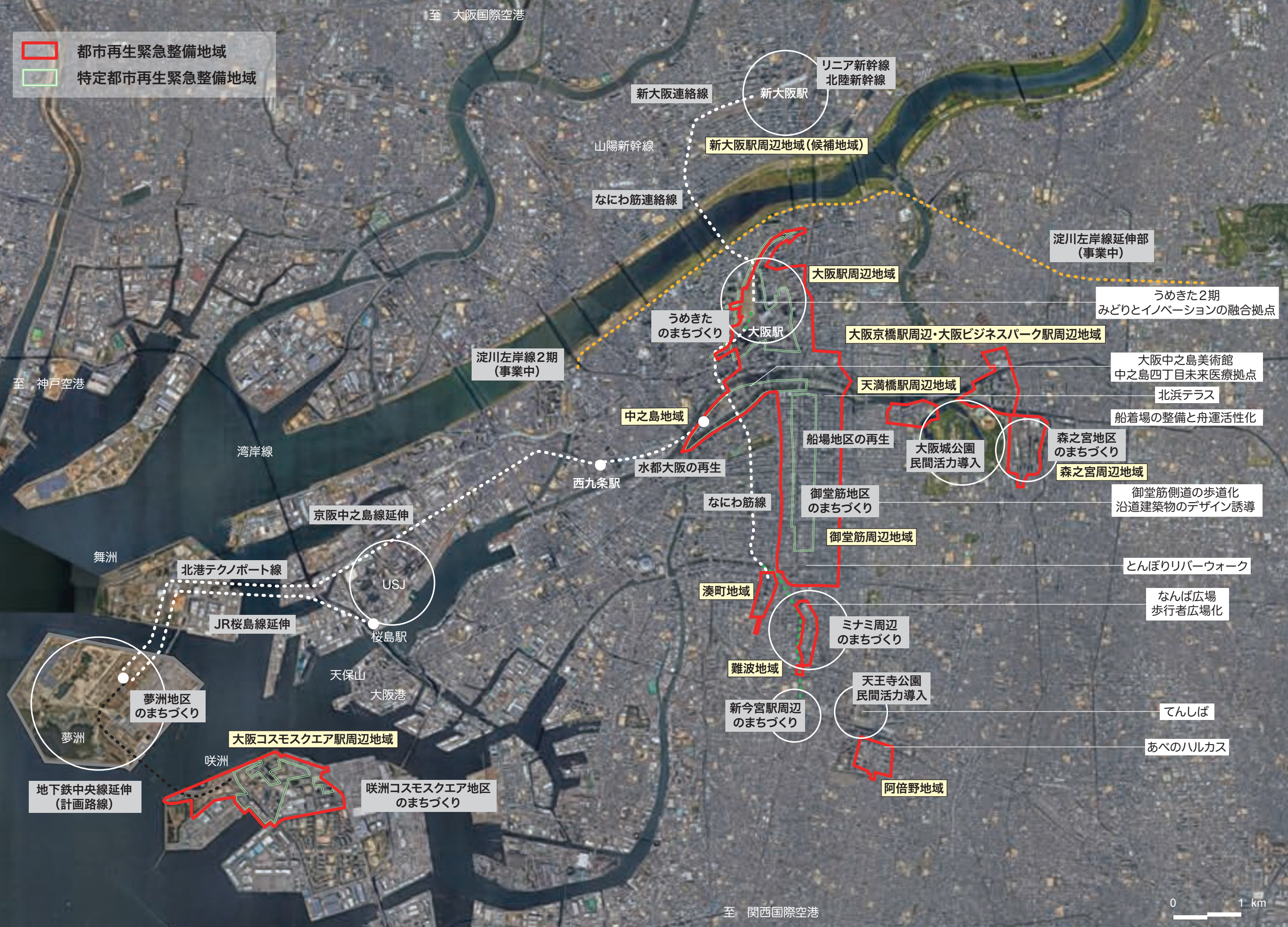
未来社会の実験場

共 創

Co Creation



新たな東西都市軸の構築(作成=益子智之)



都市再生緊急整備地域
特定都市再生緊急整備地域

新大阪連絡線

新大阪駅

リニア新幹線
北陸新幹線

新大阪駅周辺地域(候補地域)

山陽新幹線

なにわ筋連絡線

淀川左岸線延伸部
(事業中)

うめきた2期
みどりとイノベーションの融合拠点

大阪駅周辺地域

うめきた
のまちづくり

大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺地域

淀川左岸線2期
(事業中)

大阪中之島美術館
中之島四丁目未来医療拠点

天満橋駅周辺地域

北浜テラス

船着場の整備と舟運活性化

中之島地域

船場地区の再生

大阪城公園
民間活力導入

森之宮地区
のまちづくり

森之宮周辺地域

御堂筋側道の歩道化
沿道建築物のデザイン誘導

水都大阪の再生

御堂筋地区
のまちづくり

御堂筋周辺地域

なにわ筋線

とんぼりリバーウォーク

なんば広場
歩行者広場化

湊町地域

ミナミ周辺
のまちづくり

難波地域

天王寺公園
民間活力導入

新今宮駅周辺
のまちづくり

てんしば

あべのハルカス

阿倍野地域

京阪中之島線延伸

桜島駅

北港テクノポート線

JR桜島線延伸

大阪港

天保山

夢洲地区
のまちづくり

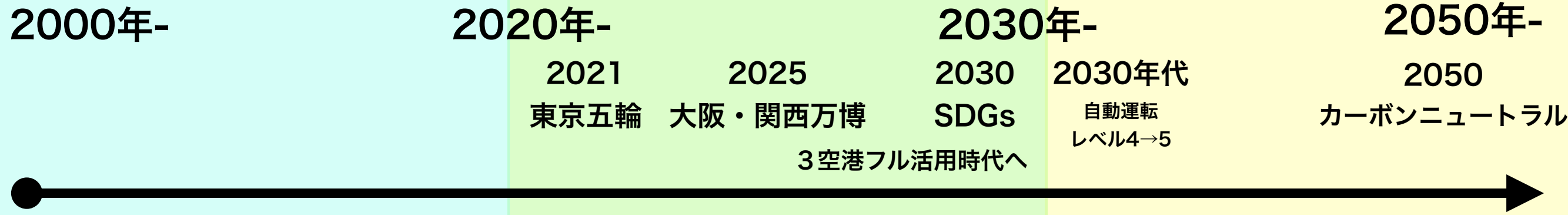
大阪コスモスクエア駅周辺地域

咲洲コスモスクエア地区
のまちづくり

地下鉄中央線延伸
(計画路線)

至 関西国際空港

0 1 km



2001-
水都大阪の再生（都市再生プロジェクト）

2001-
とんぼり
リバーウォーク

2003
なんばパークス

2009
川の駅はちけんや
水都大阪2009
北浜テラス
2010
中之島公園再整備

2011
大阪ステーションシティ

2012
中之島フェスティバルシティ

2013
グランフロント大阪

2014
あべのハルカス

2015
てんしば（天王寺公園）

2016

2019
御堂筋将来ビジョン

2020年代後半

2022
OMO7（星野リゾート）
梅田1丁目1番地計画

2023
うめきた地下駅開業

2023
なんば広場
部分オープン

2023
御堂筋側道歩行者空間化
（難波～長堀通）
なんば広場全面オープン

2024
うめきた2期
GGO
先行まちびらき

2025
阪神高速淀川左岸線
2期開通
淀川大堰水門

2025
御堂筋側道歩行者空間化
（難波～長堀通）
なんば広場全面オープン

2025
GGO
全体開業

2025秋ー2026
大阪公立大学
森之宮キャンパス

2026

2027
うめきた2期
GGO
全体開業

2030
なにわ筋線
新大阪連絡線

2031（目標）

2032
阪神高速淀川左岸線
延伸部開通

2030年代半ば
芝田1丁目計画

2037以降
リニア中央新幹線全面開業
（新大阪）

2036以降（要望）
北陸新幹線全面開業

2037
御堂筋100周年
フルモール化

大阪のまちづくりグランドデザイン

大阪のまちづくりグランドデザインの概要

ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示す。

1. 大阪都市圏からみた特徴・役割

- ◆西日本国土軸及び太平洋新国土軸上に位置し、西日本経済の中心、世界のゲートウェイの役割とともに、今後、世界最大級のスーパー・メガリージョンの西の核としての機能を担う
- ◆交通ネットワークを中心に都市機能が集積した市街地が連坦し、コンパクトな府域を形成している
- ◆近隣府県の主要な都市と一体となって、広域的な経済交流圏を形成している
- ◆都市に近接した豊かな自然や歴史・文化資源等の多様な地域資源が集積、アクセスが良い
- ◆人口動向や社会情勢の変化、技術革新の見込み等に対応しつつ、万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、さらに成長・発展していくためのまちづくりを進める必要がある

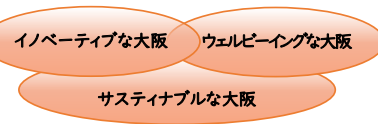
2. めざすべき都市像

(1) まちづくりの目標

未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり

【将来像】

- 魅力的な国際都市として成長する大阪 「イノベティブな大阪」
- 健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪 「ウェルビーイングな大阪」
- 未来へつながる安全・安心な大阪 「サステナブルな大阪」



【まちづくり推進の視点】「多様性の確保」、「共創」、「資源の活用」

(2) 大阪を取り巻く都市構造

◆府域の都市軸

・交通ネットワークを中心に多様な都市機能が集積し、都市軸を形成

・都心部を貫く東西・南北都市軸や、放射方向に広がる8つの都市軸及び中央環状都市軸を位置づけ



◆府域のゾーニング

土地利用や人口・都市機能の集積状況等を踏まえ、6つのゾーニングを設定



(3) めざすべき都市構造

◆広域レベル

広域的な都市構造を活かした都市圏の形成

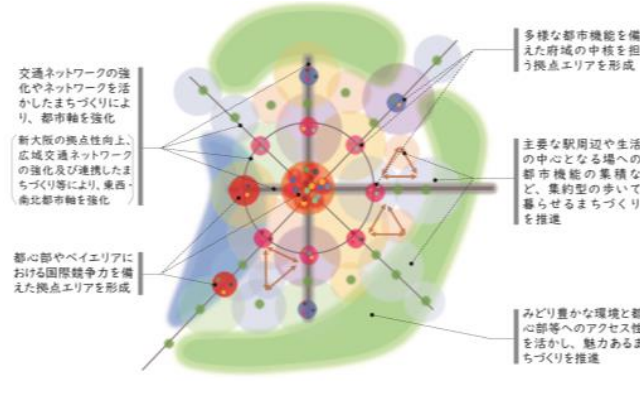
国土軸や環状軸、空港・港湾・新幹線等の広域交通インフラなど、広域的な都市構造を活かし、スーパー・メガリージョンの西の核、世界のゲートウェイに相応しい都市圏を形成



◆府域レベル

マルチハブ＆ネットワーク型都市構造の形成

都心部やベイエリアにおける国際競争力を備えた拠点エリアの形成とともに、放射・環状の都市軸上に多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざす



3. まちづくりの戦略と取組の方向性

広域的な視点から取り組むべき5つのまちづくりの戦略とその取組の方向性を示し、民間の活力を最大限に引き出しながら、具体的な取組を多様な主体が一体となって進める。

戦略1

成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア

都心部やベイエリアにおいて、国際競争力を備えた拠点エリアを形成

「新大阪・大阪エリア」、「大阪城・周辺エリア」、「なんば・天王寺・あべのエリア」、「御堂筋・周辺エリア」、「中之島・周辺エリア」、「夢洲・咲洲エリア」、「堺都心周辺エリア」、「関空・りんくう周辺エリア」計8エリア

2) 大阪の中核を担う拠点エリア

都心部周辺や郊外部において、多様な都市機能を備えた拠点エリアを形成

「北部大阪 中核エリア」、「東部大阪 中核エリア」、「南部大阪 中核エリア」、「北阪神都市軸 活性化エリア」、「京阪都市軸北 活性化エリア」、「京阪都市軸南 活性化エリア」、「南阪奈 (南河内) 都市軸 活性化エリア」、「京阪都市軸 郊外拠点エリア」、「大阪高野都市軸 郊外拠点エリア」、「阪和都市軸 郊外拠点エリア」計10エリア

3) 経済成長を促す産業拠点・集積エリア

ものづくり産業や環境・新エネ産業、健康・医療関連産業など、大阪の成長・発展をけん引する産業拠点エリアの形成や、幹線道路沿道やベイエリア等での新たな産業用地等の創出 など

戦略2

大阪ならではの魅力を活かし、暮らしやすさNo.1都市を実現

1) 駅周辺での拠点形成と魅力ある生活圏の創造

・駅周辺の再整備等に併せた都市機能の集積、人中心の空間への転換、鉄道沿線まちづくり
・新たなモビリティの活用による移動手段の充実 など

2) 郊外住宅地を多様な世代が住み、働き、交流するまちへ再編

・地域の核となる機能の導入やコワーキングスペース等の働く環境・場の創出
・新たなモビリティを活用した移動円滑化
・周辺の田園環境を活かした農との共存 など

3) 豊かな自然を活かしたまちづくり

・AI(人工知能)・交通等による交通アクセスの確保
・既存ストックを活用した働く場等の創出、先端技術を活用した生活支援サービスの提供
・豊かな自然を体験できるまちづくり、ワーケーションやマルチハビテーションの促進 など

支える

戦略4

人・モノ・情報の交流を促進

1) 交通インフラと連携したまちづくり

・道路ネットワークの機能強化と沿道まちづくり
・交通ネットワークの充実と沿線まちづくり
・空港・港湾の機能強化等

2) 豊かな都市空間を創造するまちづくり

・人中心の快適で魅力ある空間の創出
・自転車、水上交通、新たなモビリティ、エアモビリティを活用したまちづくり

戦略5

安全・安心でグリーンな社会を実現

1) 安全・安心なまちづくり

・人命を守る都市機能の強化
・供給処理施設の機能維持、再構築とまちづくりへの利活用

2) グリーン社会の実現に向けたまちづくり

・みどりを活かした魅力あふれるまちづくり
・脱炭素社会の実現に向けたまちづくり
・循環型社会の実現に向けたまちづくり

4. グランドデザインの推進に向けて

(1) まちづくりに関わる様々な主体の役割及び推進体制

・府、市町村、民間等の役割、グランドデザイン推進体制 など

(2) グランドデザインの推進に向けた取組

- ・多様な主体の共有や参画を促し、まちづくりの機運醸成等を図る取組
- ・民間主導のまちづくりを推進するための環境整備
- ・市町村及び広域連携のまちづくりの推進
- ・まちづくりを育てるための取組
- ・グランドデザインの進捗管理

5. 取組ロードマップ

短期(2025年)、中期(2030年)、長期(2040~2050年)を目標とした、まちづくりの戦略に基づく主な取組のロードマップ

6. まちづくりマップ

戦略と取組の方向性を踏まえた、大阪全体のまちづくりのイメージを示す図

堺都心周辺エリア <類まれな歴史文化と多様な都市機能を有する拠点>

大阪都心部や関西国際空港などへの交通アクセスに恵まれ、なにわ筋線など広域アクセス性が高まる南大阪都市圏の中心都市として、商業・業務・文化機能などの多様な都市機能の集積を図るとともに、大阪唯一の世界遺産を構成する百舌鳥古墳群のある大仙公園エリアをはじめ、堺旧港などの水辺空間、環濠エリアの町家や寺社などの歴史・文化資源を活かすことにより、国内外から多様な人が集い、交流する、類まれな歴史文化と多様な都市機能を有する拠点エリアの形成をめざします。

- 国内外から人が集まる交流空間の創出
 - ・空港や港、鉄道などとの高いアクセスを活かし、観光や国際交流のゲートウェイ、広域交通の結節点として、新たな交流空間を創出
 - ・堺東駅周辺や堺駅周辺を核とした商業・業務などの都市機能の集積、駅前街区の更新
- 居心地の良い都市空間の創出
 - ・大小路筋や大道筋などにおける居心地の良いウォカブルな人中心の空間の形成
 - ・堺旧港や環濠の水辺空間を活用した居心地の良い都市空間の創出
- 歴史・文化を活かした都市魅力の向上
 - ・歴史・文化資源や伝統産業を活用した都市魅力の向上
 - ・世界遺産への来訪者の市内周遊の促進及び歴史文化をテーマとした市外エリアとの連携
- 建築物のエネルギー利用の効率化やモビリティネットワークの形成による脱炭素化の推進
- 次世代モビリティの活用などによる交通ネットワークの強化
 - ・公共交通軸の強化や次世代モビリティなどの活用による、便利、快適かつ面的な移動環境の形成
 - ・美原区との拠点間ネットワークの形成と、これを契機とした南河内地域との連携
 - ・鉄道高架化による交通の円滑化と駅周辺空間の再編



堺駅・堺旧港エリア



環濠エリア



堺東エリア



大仙公園エリア

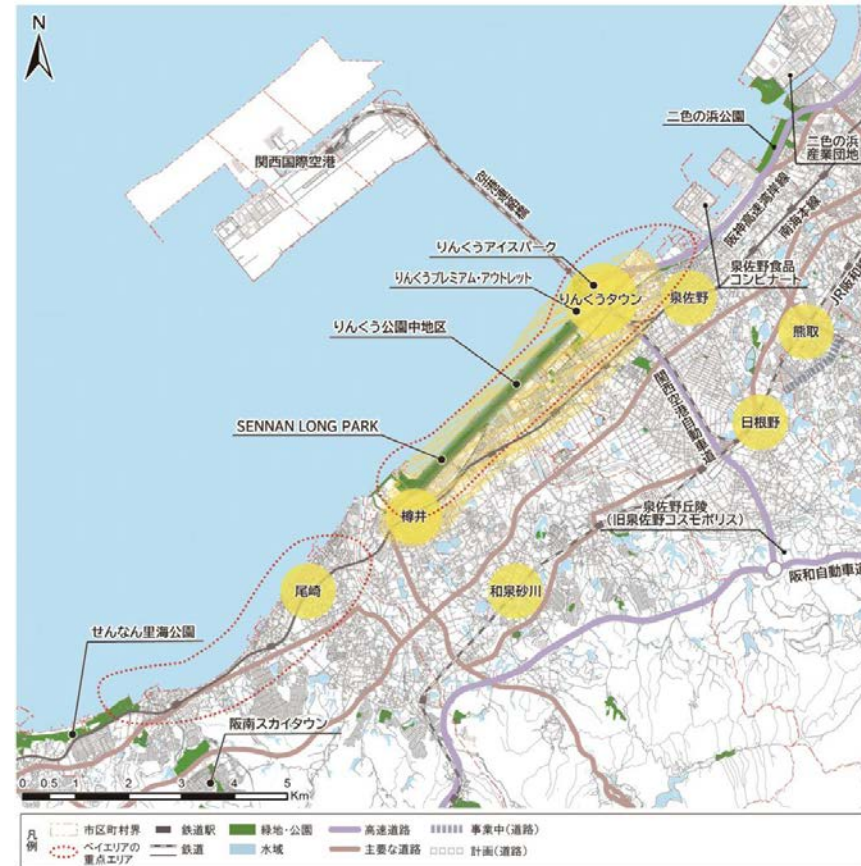


次世代都市交通
提供:堺市

関空・りんくう周辺エリア <世界のゲートシティ・泉州南部の核>

世界のゲートウェイである関西国際空港の対岸に位置するりんくうタウンを中心とした国際会議場や集客・宿泊施設、医療施設などの集積に加え、ベイエリアの魅力を感じてにぎわい機能の導入など、都市魅力の創出や都市景観の形成を図るとともに、南大阪有数の物流拠点・工場団地の維持・発展や、新たな産業用地の創出など、一層の産業集積を図り、世界のゲートシティとしての国際交流機能と泉州南部の核を担う拠点エリアの形成をめざします。

- 世界のゲートシティに相応しい都市魅力の創出や都市景観の形成
 - ・集客・にぎわい機能やMICE機能の強化
 - ・観光クルーズなどの充実
 - ・りんくう公園(りんくうアイスパーク、りんくうプレミアム・アウトレット、りんくう公園中地区、SENNAN LONG PARK)、二色の浜公園、せんなん里海公園での民間活力によるベイエリアの魅力創出や公園施設の整備
 - ・エリア内の周遊性を向上するための移動手段の充実
- 国際医療交流の推進
 - ・医療拠点としての機能強化
 - ・外国人向け医療サービスの向上・高度化
 - ・訪日外国人旅行者の受け入れ体制の充実
- 産業・業務機能の更なる活性化
 - ・既存の企業集積の維持・発展
 - ・物流機能の更なる集積・高度化による拠点機能の強化
 - ・泉佐野丘陵(旧泉佐野コスモポリス)などにおける新たな産業用地の創出



りんくうプレミアム・アウトレット
提供:りんくうプレミアム・アウトレット



関空アイスアリーナ
提供:泉佐野市



SENNAN LONG PARK
提供:泉南市



二色の浜公園イメージベース
提供:大阪府

南部大阪 中枢エリア <南部大阪の成長・発展をけん引するエリア>

高い交通利便性と大学や産業支援機関等の機能を活かしたイノベーション創出拠点の形成や、幹線道路による広域アクセス性を活かした商業・物流・産業機能の誘導など、都市機能の充実を図るとともに、魅力ある居住環境の創造や、大規模公園・緑地を活用した質の高い都市空間の創出、東西方向の交通ネットワークの強化などにより、多くの人やモノが集まる南部大阪の成長・発展をけん引するエリアの形成をめざします。

- 中百舌鳥周辺におけるスタートアップやICT関連企業などの集積、産学官連携や泉北ニュータウン等との連携による新産業やビジネスの創出と、交通結節点の駅前にふさわしい交流とにぎわいの創出(中百舌鳥イノベーション創出拠点)
- 国道309号や大阪中央環状線をはじめとした幹線道路沿道や交通結節点周辺のほか、都市計画道路の整備を契機とした商業・物流・産業機能の誘導
- 主要駅周辺への都市機能・居住機能の誘導や、新金岡地区などの公的賃貸住宅の建替等を契機とした時代のニーズに応じた都市機能の充実など、魅力ある居住環境の創造
- 大泉緑地・金岡公園をはじめとした公園や緑地等を活かしたみどりのネットワークの強化や、公園・緑地の魅力化に向けたパークマネジメントの推進
- BRTなど新たな交通システムの導入や、(仮称)大和川サイクルラインの整備等による交通利便性・回遊性の向上
- 新たな大規模施設の立地や公的賃貸住宅の建替など、市街地の面的な更新の機会を捉えた脱炭素化の推進 など



中百舌鳥イノベーション創出拠点イメージ(駅前)
提供:堺市



三宅西土地区画整理事業 イメージパース
提供:松原市



(仮称)大和川サイクルライン イメージパース
提供:堺市

南阪奈(南河内)都市軸 活性化エリア <南阪奈(南河内)都市軸の発展を担うエリア>

充実した交通ネットワークを活かした新たなまちの核となる都市拠点の形成や、幹線道路による広域アクセス性を活かした産業集積の維持・発展や立地の誘導、八尾空港周辺の防災拠点としての機能強化とともに、大和川などの自然環境、世界遺産の古市古墳群や竹内街道、葛井寺などの歴史・文化資源等の集積を活かし回遊性の向上を図り、農空間やフルーツなどの農産物も活用し、エリア外から多様な人を呼び込む都市魅力に加え、良好な住環境を備えた南阪奈(南河内)都市軸の発展を担うエリアの形成をめざします。

- 交通利便性の高い主要駅周辺における都市拠点の形成
 - ・八尾駅前前の八尾空港西側跡地における地域の活力と元気を引き出す複合機能都市拠点の形成
 - ・長原駅における地域の核となるにぎわい・集客機能の導入及び交通結節機能の向上
- 関係機関との連携による鉄道沿線地域の活性化、庁舎再整備などを活かした歴史・文化・観光資源等の魅力発信
- 大阪外環状線や南阪奈道路、八尾空港の周辺、八尾富田林線等の都市計画道路の整備を契機とした産業集積の維持・発展、立地の誘導
- 八尾空港周辺の防災機能の強化および空港を活かした特色あるまちづくりの推進
- 河川空間における民間活力を活かしたにぎわいの創出や、治水機能を有した公園の利活用によるレクリエーション空間の創出
- 歴史・文化資源等をつなぐ観光コンテンツ・ルートの整備やサイクルルートの活用等による回遊性・集客力の向上
 - ・古市古墳群や周辺の古墳、神社仏閣等をつなぐ散策ルートの整備及びサイクルルートや鉄道・バス等の交通機関の活用、新たなモビリティの導入
 - ・藤井寺駅周辺の回遊ルート上における、アイセルシュアールの拠点化や古民家・空き店舗・空き地の利活用
 - ・国史跡指定由義寺跡、富田林寺内町の保存や活用・整備、竹内街道・横大路(大道)の活用
- 農地・里山などの田園環境を活かした農業体験、地産地消など農との共存、豊かな自然を活かしたまちづくりの推進
- 金剛山、棚田等の景観、フルーツをはじめとした農産物、道の駅などの資源を活用した地域活性化 など



八尾空港西側跡地まちづくり
出典:八尾空港西側跡地まちづくり構想(案)
を加工して作成



大和川の河川空間オープン化イメージ
提供:柏原市



八尾富田林線とあわせたまちづくりイメージ
提供:藤井寺市



アイセルシュアール
提供:藤井寺市



富田林市新庁舎建設プロジェクト
提供:富田林市



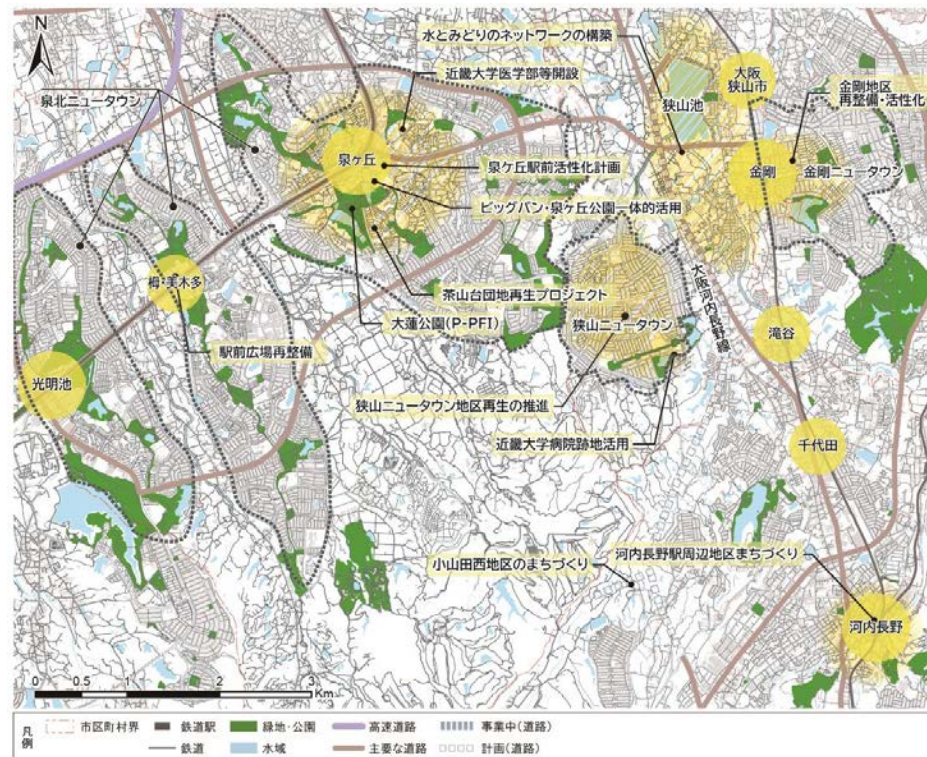
南河内フルーツロード
提供:大阪府



大阪高野都市軸 郊外拠点エリア <泉州・南河内地域の核となるエリア>

主要な駅を中心に複数の大規模ニュータウンが連坦する特徴を活かし、公的資産等の活用による地域の核となる多様な都市機能の導入や、新しいモビリティの導入をはじめとしたスマートシティの推進などとともに、複数のニュータウンを一体的なエリアとしてとらえ、交通連携による各拠点間のネットワークの強化や、各種取組の連携・ノウハウの共有等を行うことにより、エリア全体において拠点性や居住魅力を高め、泉州・南河内地域の核となるエリアの形成をめざします。

- ICTを活用した公民連携・分野横断的な取組の推進による、スマートシティ化の実現
- 近畿大学医学部・病院の開設や駅前施設の建替等、泉ヶ丘駅前地域の空間整備による、南大阪をリードする拠点の形成
- 金剛駅周辺エリアでの子育て支援機能や生活利便機能等の導入による、にぎわいや多様な交流が生まれる空間の創出
- 河内長野駅周辺地区における官民連携によるウォカブルなまちづくりの推進
- リモートワークやシェアオフィス、コワーキングスペースの活用による働く環境・場の創出
- 公的賃貸住宅活用地における脱炭素の視点を取り入れたまちづくりの推進や、近畿大学医学部・病院跡地等における公民連携による新たな都市機能の導入
- 住宅ストックのリノベーションの推進等によるライフスタイルに合わせた住まい、コミュニティの場の提供
- 既存公共交通網の活用やオンデマンド交通、新しいモビリティの導入等によるエリア内外の移動円滑化
- 鉄道事業者と連携した沿線地域の活性化によるエリア価値の向上
- 小山田西地区のまちづくりや併せて整備する大阪河内長野線による交通ネットワークの強化や産業機能の導入
- 狭山池や大蓮公園、泉ヶ丘公園、寺池公園などを活かした水とみどりの魅力的な空間の創出 など



近畿大学医学部・病院イメージ図
提供:近畿大学



小山田西地区イメージパース
提供:河内長野市



南海金剛駅周辺まちづくり イメージ
出典:金剛地区施設等再整備基本構想



河内長野駅周辺地区まちづくり イメージ
出典:河内長野駅周辺地区まちづくり方針

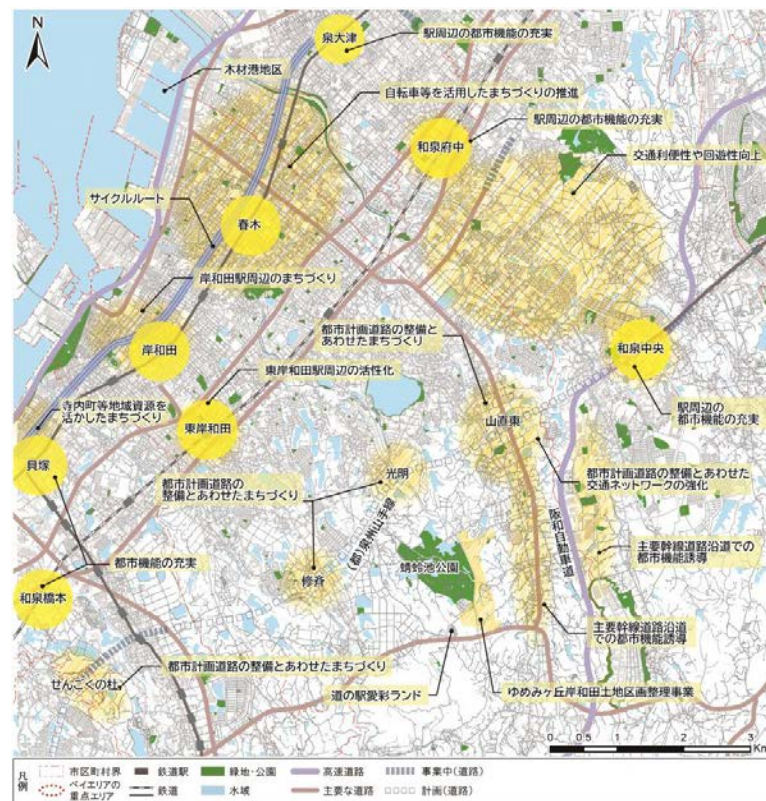


日本最古のダム形式のため池・狭山池
を活かした水とみどりのネットワークの形成
出典:大阪狭山市HP

阪和都市軸 郊外拠点エリア <泉州・バイエリアの核となるエリア>

関西国際空港に近接し、幹線道路や鉄道による広域アクセス性に優れた立地特性や、新たな幹線道路の整備等を契機としたまちづくりが進められている特徴を活かし、産業立地の誘導や主要駅周辺における都市機能の集積、良好な住環境の創出を図るとともに、歴史・文化などの地域資源を効果的に連携・活用しながら、バイエリアと内陸部をつなぐサイクルルートのネットワークや快適な歩行者空間の形成により、回遊性やアクセス性の向上を図り、泉州・バイエリアの核となるエリアの形成をめざします。

- 臨海部における工業・流通機能の集積や先端産業・新産業空間の創出、および交通利便性の高い阪和自動車道周辺や都市計画道路の整備とあわせた産業立地の誘導
- 泉州山手線の整備やその沿道まちづくりと併せた、交通結節点の整備や新たな輸送システムの導入、先端技術を活用した新たなモビリティの活用等、交通ネットワークの強化による利便性の向上
- コミュニティバスの運行強化や新たなモビリティの導入等による交通利便性や回遊性の向上
- 岸和田駅周辺における、商店街や文化施設、商業施設、コミュニティ拠点等の様々な資源・機能の相互連携や高度化による、人が集い、憩い、交流する拠点の形成
- 泉大津駅や和泉府中駅、和泉中央駅、貝塚駅などの主要駅周辺における、居住・商業・公共サービス等の多様な都市機能の充実や交通結節機能の強化
- 自然や歴史・文化資源を活用したまちづくりの推進
 - ・ゆめみヶ丘岸和田における、眺望を活かした居住地の形成や豊かな自然資源の利活用、農業をはじめとする多様な産業の交流・連携、道の駅愛彩ランドの拠点形成
 - ・蜻蛉池公園など大規模公園の活用
 - ・せんごくの杜における自然・交流・防災機能を融合した拠点の整備
 - ・紀州街道やその沿道の町屋、寺内町や旧家住宅、岸和田城、水間鉄道周辺など歴史的な地域資源の活用
- 自転車等の活用による、鉄道駅から臨海部へのアクセス強化や地域資源をめぐる観光ルートの形成 など



泉州山手線整備に併せた
モビリティ・ハブの整備イメージ
提供:岸和田市



和泉中央駅周辺の整備イメージ
提供:和泉市



ゆめみヶ丘岸和田のまちづくり
出典:岸和田市HP



せんごくの杜のまちづくり
提供:貝塚市

グレーターミナミの活性化に向けて

都市活性化委員会

難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町を結ぶエリアを起点に、大阪府南部の泉州と南河内を含む地域を「グレーターミナミ」と位置づけ、同地域の活性化に取り組んでいます。

＜グレーターミナミとは＞

難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを基点に、大阪府南部に広がる、泉州9市4町と南河内6市2町1村を含む地域。難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを「グレーターミナミ・シティ」と呼ぶ。



泉州：堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、和泉市、岸和田市、貝塚市、熊取町、田尻町、泉佐野市、泉南市、阪南市、岬町

南河内：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

これまでにを行った活動（事業、提言要望、記者発表ほか）

- 提言「グレーターミナミの活性化に向けて」
～難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアと、大阪府南部の泉州・南河内地域を、
一体的な発展をめざす都市経済圏「グレーターミナミ」として活性化～
(2019（平成31）年4月12日)
- 「グレーターミナミ連携会議」第1回会議 以降毎年開催
(2020（令和2）年6月30日)
- 提言「グレーターミナミ・シティにおける持続的なビジネス等の活性化に向けて」
～地域資源を活かし、『外国人起業家の拠点』をめざして～
(2020（令和2）年11月25日)
- 「グレーターミナミ活性化に向けた調査・提言」について
～アフターコロナを見据え、“機能強化”と“グローバル育成”を提案～
①グレーター・テロワール、②グリーン・ベイ、③外国人誘致・居住
(2022（令和4）年8月2日)

グレーターミナミとは

- ・難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを基点に、大阪府南部に広がる、泉州9市4町と南河内6市2町1村を含む地域。
 - ・難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町エリアを「グレーターミナミ・シティ」と呼ぶ。
- 泉州：堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、和泉市、岸和田市、貝塚市、熊取町、田尻町、泉佐野市、泉南市、阪南市、岬町
- 南河内：富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

現状・課題

- インバウンドで明暗がわかる。グレーターミナミ・シティは、インバウンドの受け皿だが、それ以外の地域は、関空利用者の通過都市。
- 2031年になにわ筋線が開業すれば、グレーターミナミ・シティも通過点になりかねない。
- 国等による中長期のまちづくり整備計画がなく、一体的に発展する地域としてとらえられていない。

具体方策

グレーターミナミ全体

新産業を揺籃する研究開発機能の集積

- ①高度先進農水産業の育成
- ②国際医療拠点の形成
- ③人材育成の推進

土地利用転換

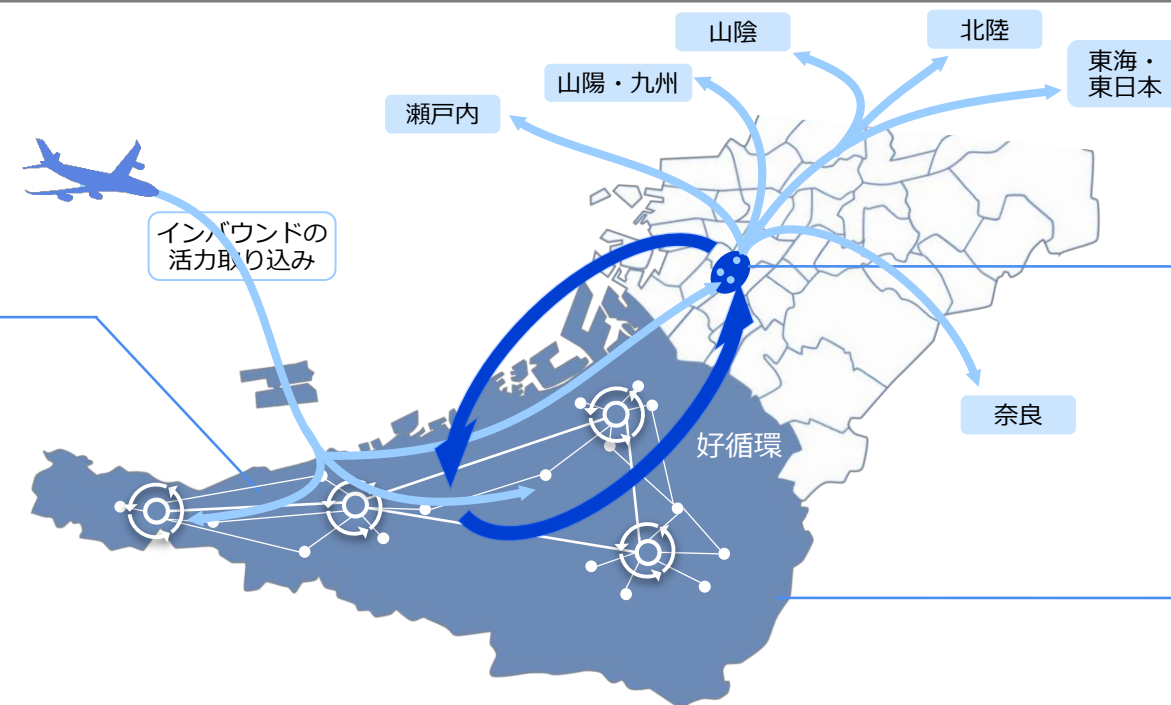
- ④良質な住環境整備
- ⑤厚みのある観光エリアの形成

観光都市機能の充実

- ⑥24時間都市の整備

アジアビジネス、アジアベンチャーが集積するエリアの形成

- ⑦新産業育成拠点の構築



グレーターミナミ・シティ

観光産業地域としてのまちづくり

- ⑪グレーターミナミTIDの推進
- ⑫観光送客のゲートウェイ

インバウンドビジネスの集積促進

- ⑬インバウンドビジネスのアクセラレータの設置

アグリバイオの研究開発機能の集積

- ⑭アグリバイオのイノベーション創出拠点の整備

グレーターミナミ全体

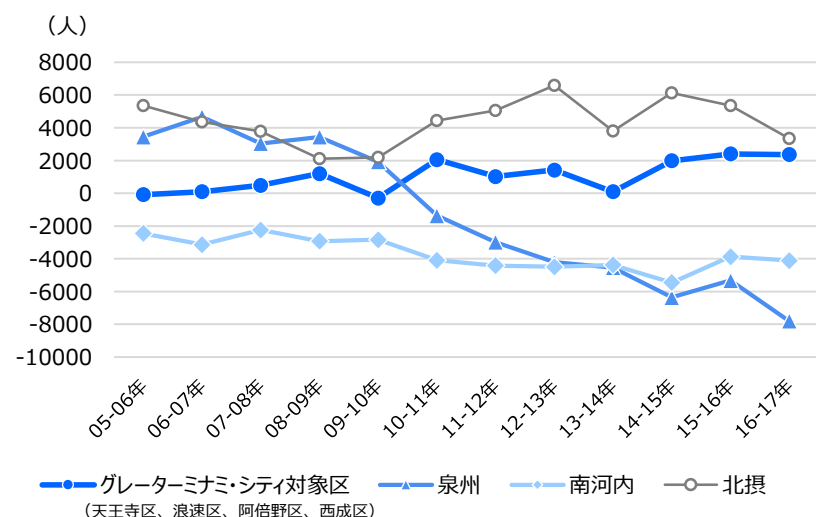
インバウンドビジネスの集積促進

- ⑧MaaSプラットフォームの構築
- ⑨着地型観光の振興

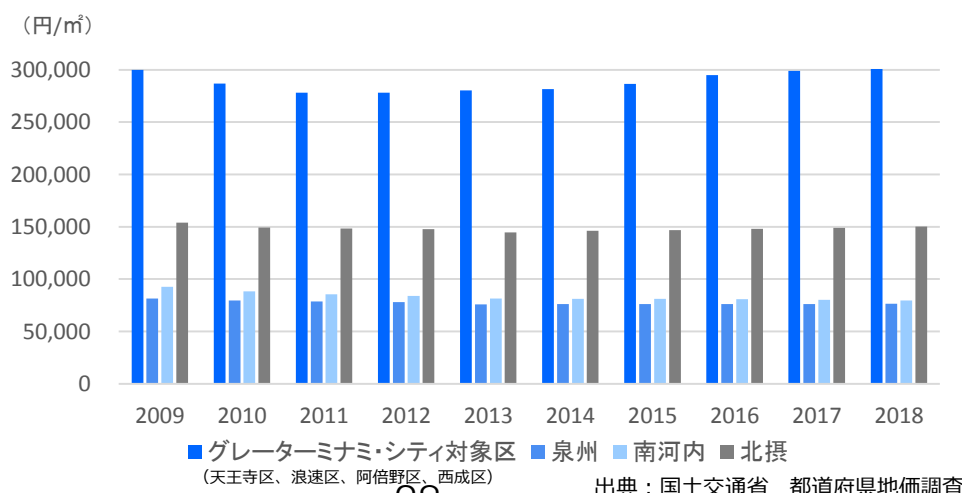
一体的な都市経済圏の形成

- ⑩地域整備計画の策定

地域別人口増減

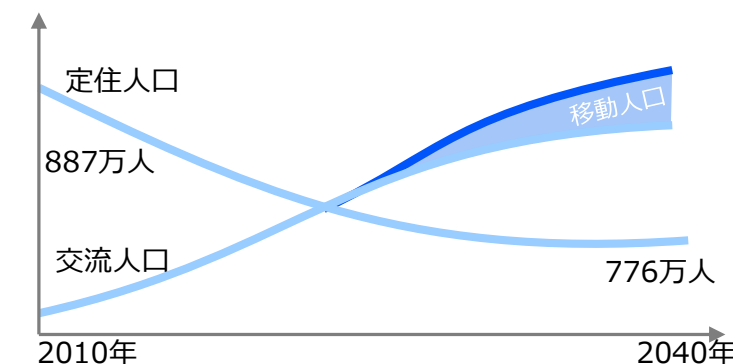


地域別地価推移



今後の人口推移イメージ

大阪府の人口（定住人口）は、2010年の887万人をピークに減少期に突入し、2040年には776万人と急激な減少が見込まれる。そこで、インバウンドなどの交流人口や、国内外からの移動人口を増やし、グレーターミナミの活性化をはかる。



「グレーターミナミ活性化に向けた調査・提言」について

～アフターコロナを見据え、“機能強化”と“グローバル育成”を提案～

グレーターミナミの状況

- ・堺、岸和田等、府下でも有数の農業生産出荷額
- ・北摂にはない農林漁業・第一次産業の集積
- ・消費地との近さ
- ・自然と近いライフスタイル
- ・食のイメージ、名産品等の弱さ

等

- ・カーボンニュートラルの加速
- ・堺泉北港ほか臨海部で産業集積地の脱炭素化要請（再エネ導入や運輸部門のCO2削減）
- ・大阪広域ベイエリアまちづくりビジョンの策定
- ・なかもず等、スタートアップ拠点の形成、大阪公立大の誕生

等

- ・アフターコロナでのインバウンド観光回復への期待
- ・夢洲（2029）でのIR開業
- ・外国人雇用の創出、受け皿となる居住環境整備、グレーターミナミ・シティの議論等
- ・関連産業の誘致やインフラ投資

等

定住人口増に向けたプロジェクト（PJ）

① グレーター・テロワールPJ

貴重な自然空間と都心部や空港への近接性を活かした新たなライフスタイル/暮らし方の提案、自然の恵み（食材）を活かした食の都づくりや観光振興

※テロワール（Terroir）：ワインのブドウ等の産地が育む、土壌、地勢、気候等の自然環境上の特徴のこと

② グリーン・ベイPJ

カーボンニュートラル時代を先導する先端技術集積、エネルギーの最適利用を図る新たなベイエリアの創出と企業誘致（アミューズベイ（夢洲）/ブレインベイ（神戸）と差別化）

③ 外国人誘致・居住PJ

関西国際空港への近接性、IR（夢洲）の立地、グレーターミナミ・シティでのグローバル共生等の取り組みを生かし、外国サービス人材の居住・生活の拠点形成

④ 上記①～③を実現するインフラ・移動等のネットワーク形成

PJ展開イメージ・事例等

- 美食をテーマにしたツーリズムや地域振興
- 内陸部（阪和道沿線等）を活用したフードテック企業の誘致
- 自然・農と共生した新たな住宅地開発の提案（先進事例：株式会社スノーピーク）
- 空港直結ワーケーション・第2拠点（先進事例：白浜）

- 産業集積を推進する重点的エリアの設定（例：岸和田の大坂材木コンビナート等）
- 大規模再エネ活用の広域FS等
- 運輸部門CO2の削減に向けた新たなモビリティ活用（EV）
- 専門人材の集積・育成（大阪公立大学ほか）

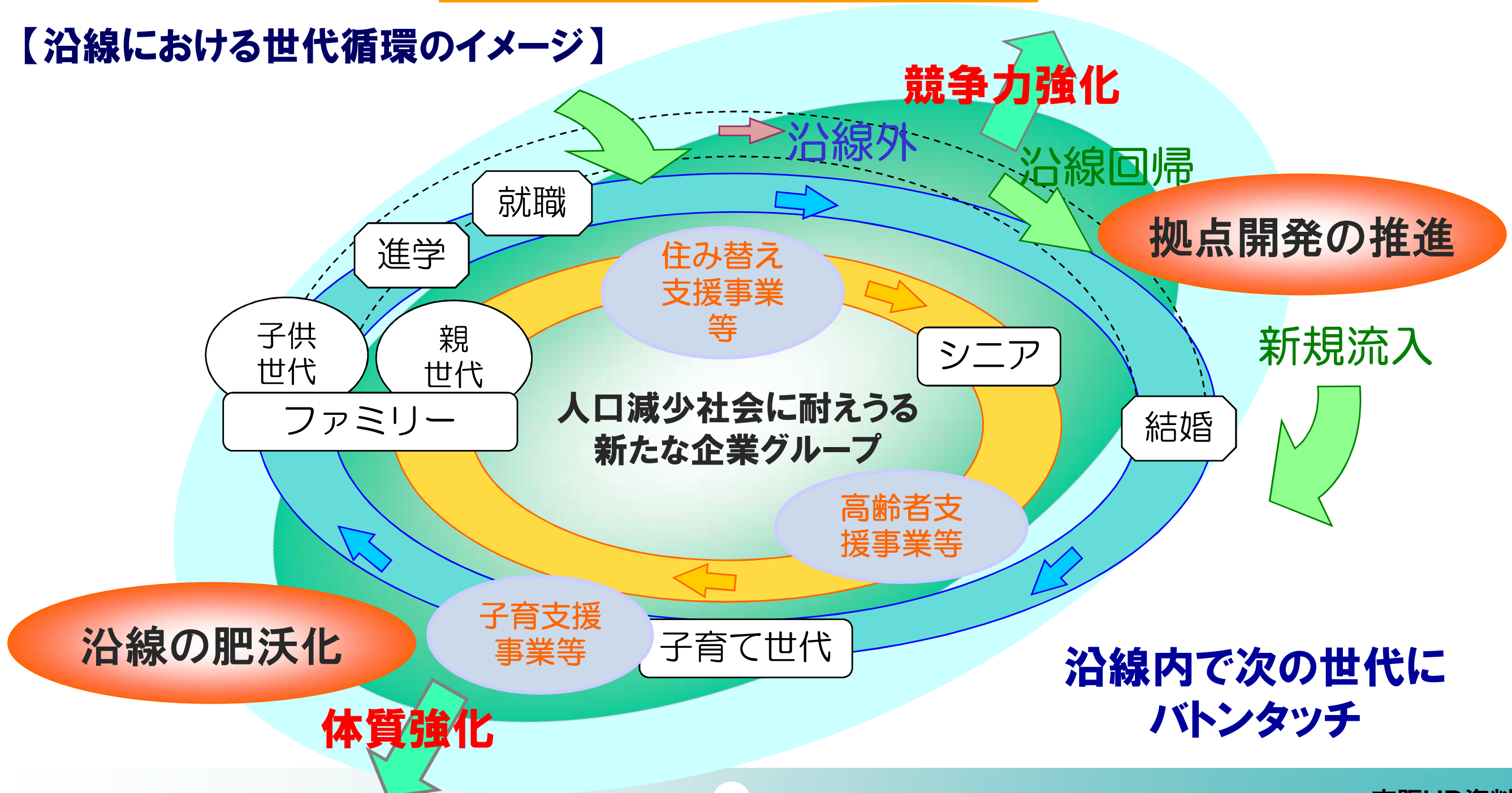
- IR事業者等への誘致活動やPR
- 外国人向けサービスの誘致（インターナショナルスクール・研修施設等）
- 沿線自治体・鉄道会社と協働した土地・資産の活用

沿線再耕のイメージ

住みたい沿線、快適に暮らせる沿線の実現

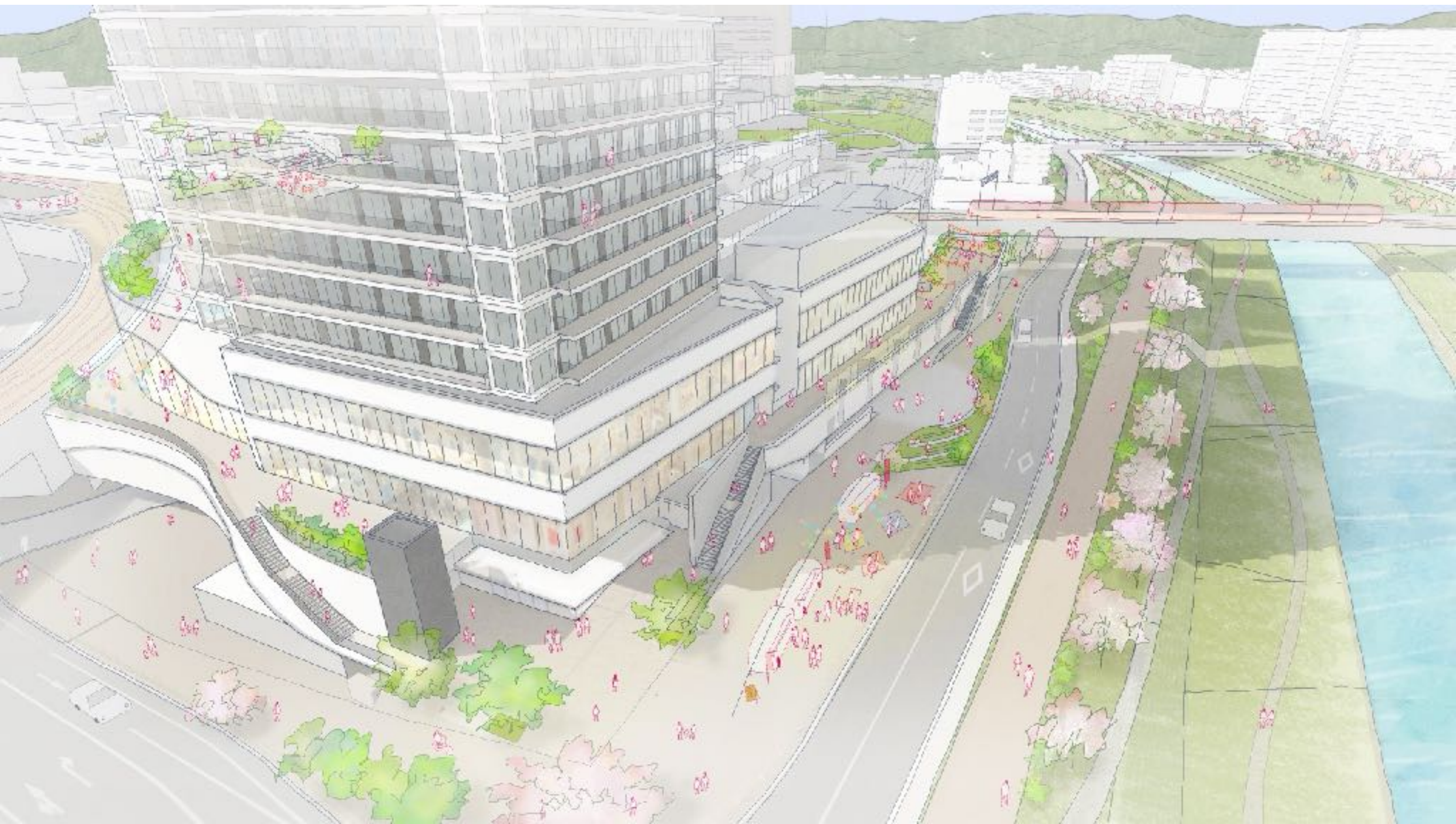
沿線人口増加へ

【沿線における世代循環のイメージ】

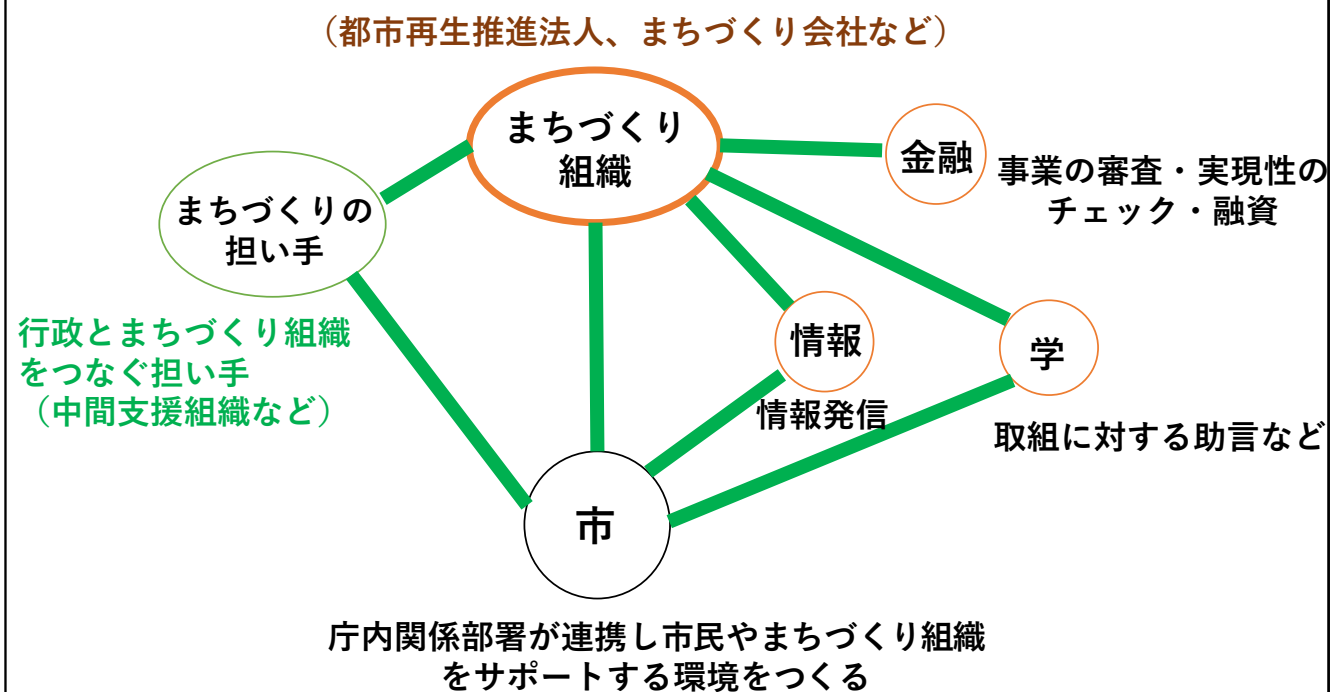




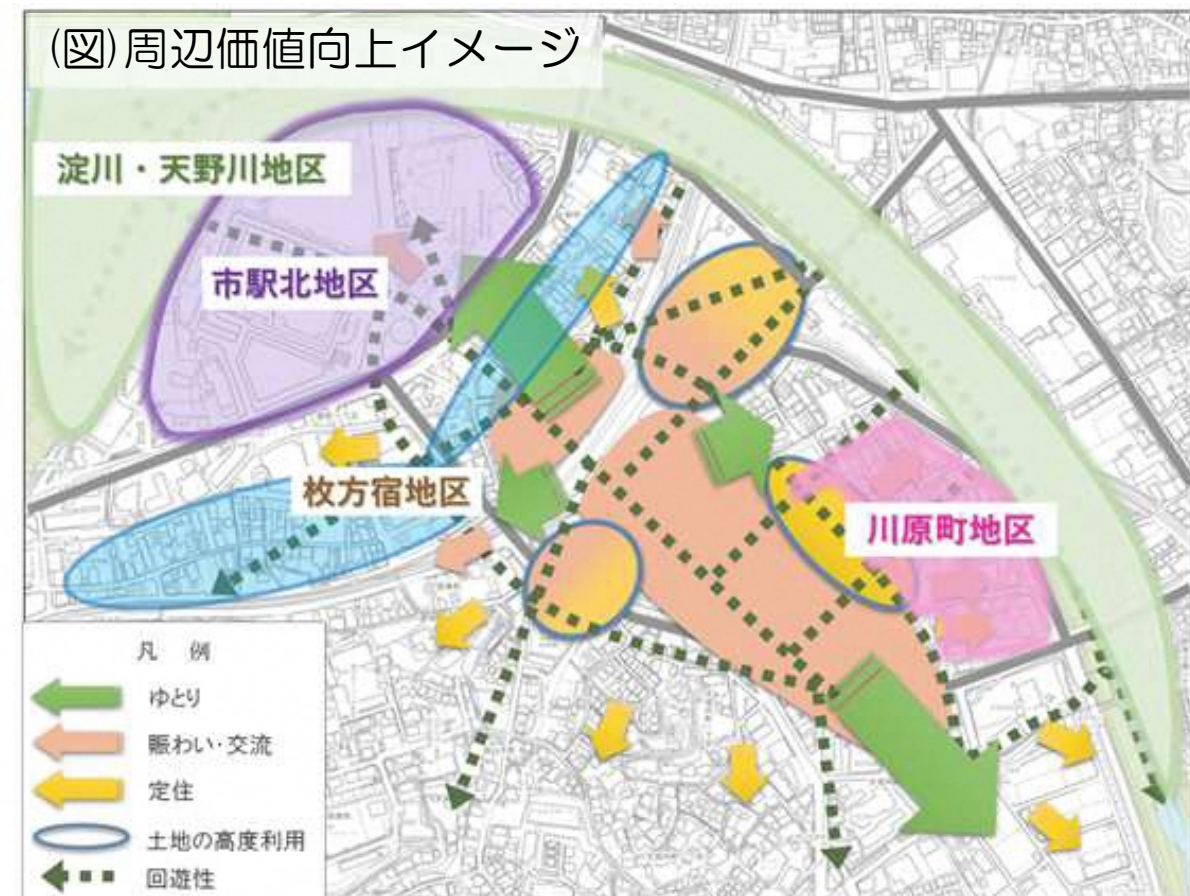




(図) エリアマネジメントを促進する環境のイメージ



(図) 周辺価値向上イメージ



エリアマネジメントの促進にむけて

- ◎社会実験を通じて、公共空間などを活用し、市民や来街者による居心地の良い（快適に楽しく過ごせる）場所づくりを促進する
- ◎継続した取組にむけ、まちづくりの担い手となる人材育成、エリアのルール作り、新規事業の創出などを行い、収益事業の検討を行う
- ◎まちづくりの活動に関わる人を増やし、エリアマネジメントの仕組みづくりを促進する

特集 いけだ駅前活性化プロジェクト始動！



官民連携まちなか再生推進事業

いけだ駅前活性化プロジェクト始動！

阪急池田駅を中心に、五月山動物園からカップヌードルミュージアム 大阪池田を含む「駅周辺エリア」を、もっと居心地が良く、歩きたくなる「まちなか」にするための、いけだ駅前活性化プロジェクト。

国土交通省による「官民連携まちなか再生推進事業」を活用し、同エリアの未来ビジョンの作成と、それを実現するために地域だけで自走できる仕組みづくりに取り組んでいます。

持続可能な住民参加型のまちづくりをめざし、さまざまな企業や団体、地域住民と協力しながら取り組む同プロジェクトについてご紹介します。



官民連携によるまちづくりの展開が必要不可欠

住民参加型のまちづくりとは

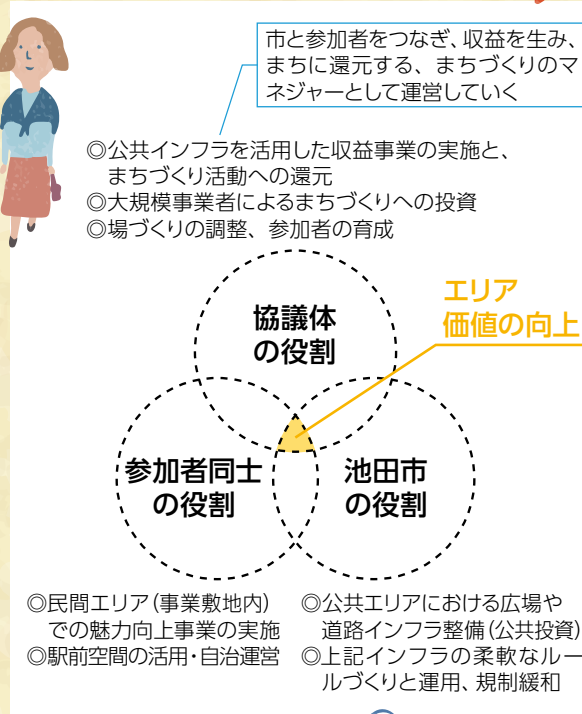
これまでのまちづくりは、行政が事業計画に基づいてハード整備を行ってきました。しかし最近では、ハード面(道路、公園、建物などの整備)だけでなく、ソフト面(うるおい、やすらぎ、連帯感、地域への愛着など)を含む総合的なものとなってきました。

そこで、利害を共有する市と民間、個人や団体が連携し、「まちに居場所をつくり、収益を生み出し、それをまちに還元していく」という形のまちづくりが全国で実践されています。これを「エリアマネジメント」と呼びます。

地域に関わるあらゆる人がそれぞれの役割を発揮することで、持続可能なまちをつくり、地域の価値を高めることにつながります。

また、持続可能なまちづくりには、使う人の目線で考え、作っていくことが重要です。そのために、まず未来像(ビジョン)を共有した上で体制を作り、空間をデザインし、さまざまな活動を生み出し、

育成・管理していくという方法で取り組みます。

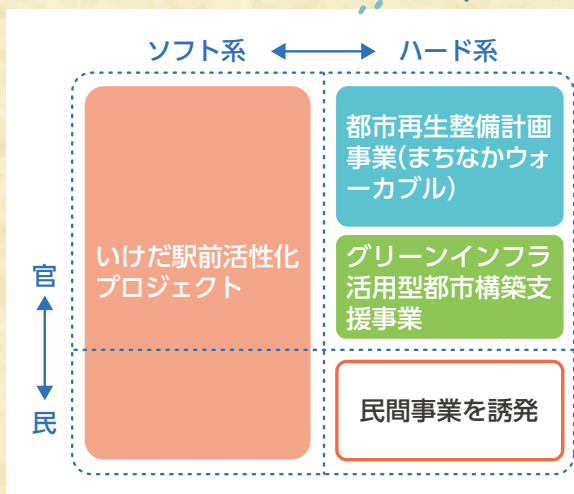


現在進行しているまちづくり事業

本市では、いけだ駅前活性化プロジェクトの他にも、「都市再生整備計画事業(まちなかウォークابل)」「グリーンインフラ活用型都市構築支援事業」などの検討が進められています。

これらは、みどりの機能を生かした歩きたくなる空間づくりのための、主にハード面の整備が中心です。一方で「いけだ駅前活性化プロジェクト」は、市民の皆さんとまちづくりについて協議する場としてエリアプラットフォームを立ち上げ、にぎわいの創出や地域の魅力向上に取り組むためのソフト面の事業を主としています。

各事業同士で連携し、使う側の視点に立ったソフトとハードの整備を進めていくことで、民間投資を生み出すなど、将来的には駅周辺のエリア価値の向上をめざします。



いけだ駅前活性化プロジェクト進捗レポート

同プロジェクトのメンバーは現在約70人。メンバーとともにコンセプトやルール作りを検討しています。最終的には3つのグループに分け、今年度中に全6回の会議を開催します。その結果を踏まえて、今後イベントを開催予定です。さらに4年度には、「いけだ未来ビジョン」を作成する予定です。

検討会議の概要とスケジュール

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
3年10月25日	11月26日	12月13日	4年1月24日	2月	3月
・自己紹介 ・オリエンテーション ・地域のいいところを話し合う	・まちの資源やほしい機能を探す	・面白い事例を研究 ・めざす姿の仮説を立てる	・まちでやってみたい活動を考案	・イベントに向けてグループごとに準備を始める	・イベントに向けた最終準備

検討内容のイメージ

大きな商業施設が並ぶ池田駅前、池田を南北に貫く商店街やさくら通り、そして落語みゅーじあむや呉服座など文化施設が集まる本町通りを軸として、広い範囲での「駅前」として捉えています。これらのエリアで、皆さんの活動や資源をつなぎ、池田に暮らす人・働く人が歩いて楽しむ新しいチャレンジができるまちづくりを考えます。



駅前の活用
てるてる広場やせせらぎモールと商業施設を地上レベルで接続させた空間づくりを、実現したい滞在イメージとともに考える。



ストリートハブ
さくら通りと本町通りが交差する「ストリートハブ」のあり方を考え、コミュニティセンター用地やポケットパークとの一体的な使い方を考える。



駅前交通のスマート化
駅から五月山に向かう坂道の歩きやすさや、駅前の回遊性向上のため、シェアサイクルなどの都市インフラの導入を考える。

Team A

どのエリアをどのように使いたいか考える。4年度には実際に使い方の社会実験を開催予定。

Team B

せせらぎモールを中心に、実現したい駅前空間を考える。さらに広範囲での商業施設の魅力発信を考える。

Base C

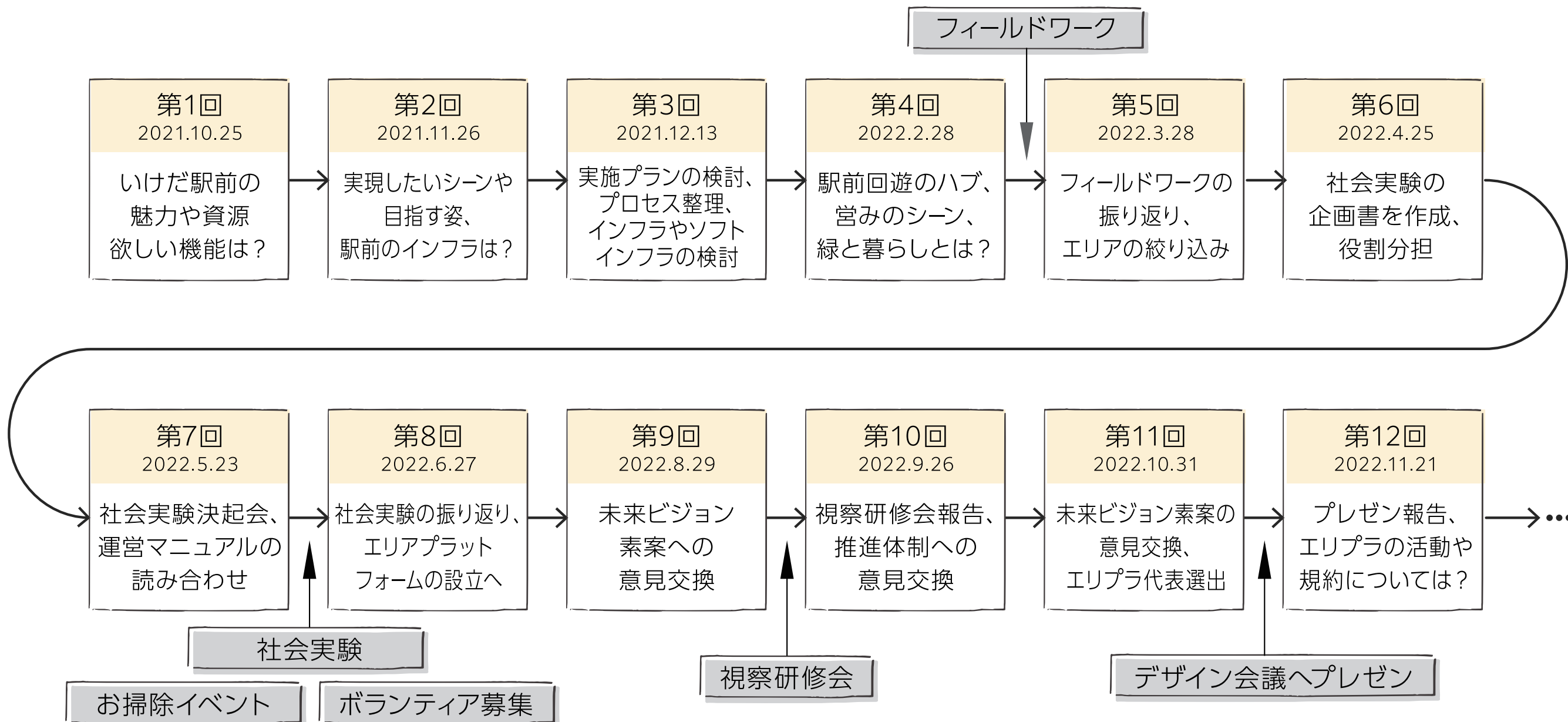
A・Bチームの内容を参考にしながら、駅前にあってほしい「都市のインフラ」を考える。

いけだ未来ビジョン策定へ

池田市資料

プロジェクトミーティング

わたしたちは、いけだ駅前の公共空間のあり方を再検討し、緑あふれる、歩いて楽しめるまちづくりに向けて、多様な主体が連携して、駅前を使って・つなげて・活動するためのコンセプトやルールを話し合うミーティングを重ねてきました。









ビッグデータ会社（株式会社unerry）によるプレゼン



大阪市大による研究成果発表



社会実験データの共有

沿道協議会ワーキング 2019年2月～3回開催

回遊創出研究会準備会 2020年2月21日
ビッグデータ等のプレゼンテーションと意見交換

第1回研究会 2020年10月23日
ビッグデータ等のプレゼンテーションと意見交換
社会実験と実証実験について説明

第2回研究会 2021年3月16日
12月実施の社会実験と実証実験の報告

第3回研究会 2021年10月20日
社会実験と実証実験について説明

第4回研究会 2022年3月16日
・学生による研究の報告
・御堂筋チャレンジ2021・なんば駅前広場社会実験の結果報告と意見交換

一社大阪活性化事業実行委員会／中央区商連への報告

御堂筋
チャレンジ
2020

御堂筋
チャレンジ
2021

2022年度は、「滞在空間づくり」と「分散型イベント」での回遊促進を実施

ミナミ・ウォーカブル・ストリート

2025大阪・関西万博に向け、まちと、みちと、DXでつなぐ、ミナミエリアの一大社会実験

御堂筋チャレンジ

(商店街・エリマネ団体ほか)

⇒休憩・滞在空間による回遊促進

○南北のウォーカブル環境づくり（御堂筋）

・御堂筋の2期整備区間（道頓堀川～千日前通）完成に合わせた、滞在空間の実験（ベンチの設置など）

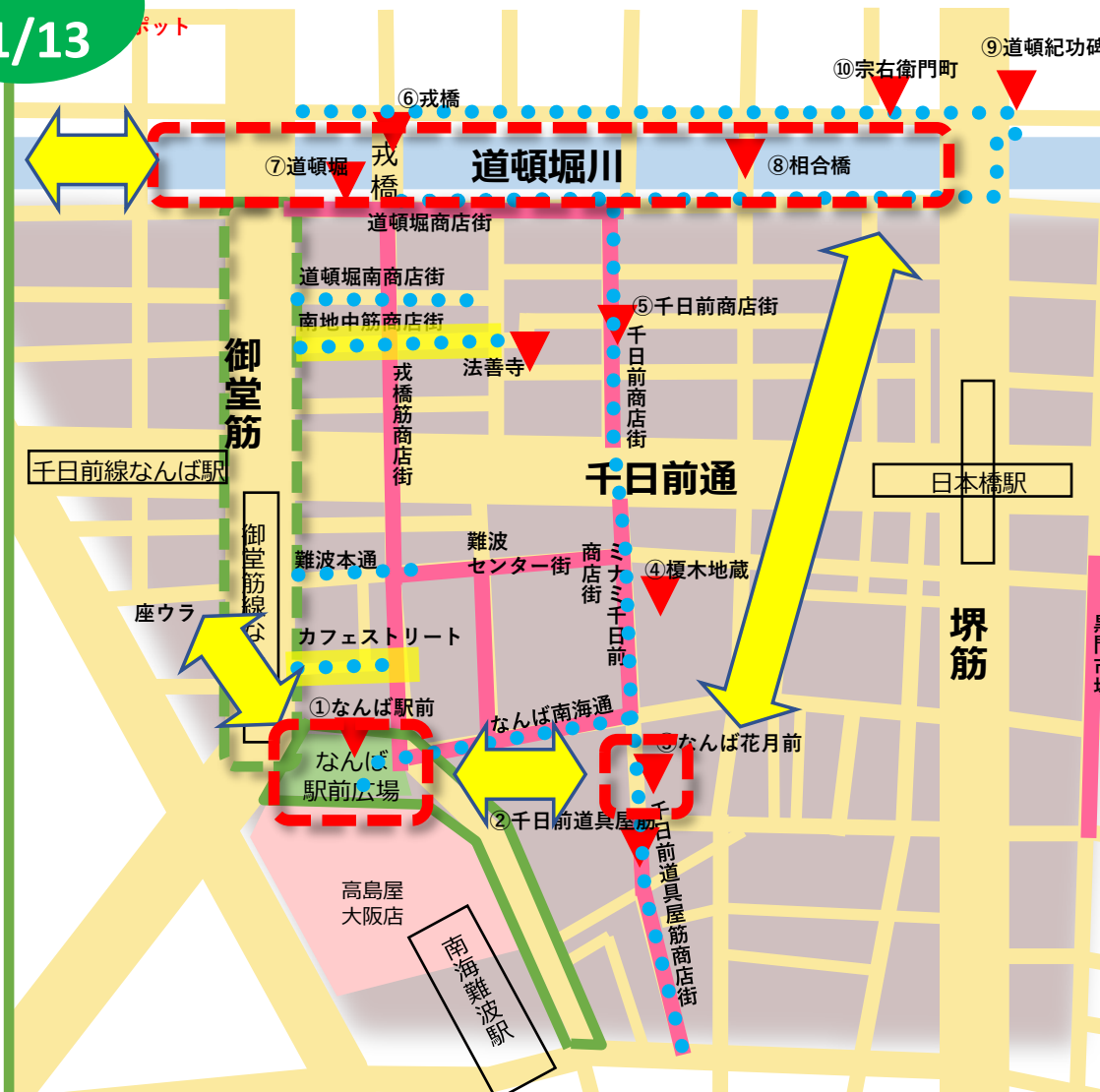


○東西のウォーカブル環境づくり

・東西方向の商店街と連携した、路地空間のウォーカブルな魅力
・空間づくりの実験（オープンカフェなど）



10/15-
11/13



産官学でのデータ検証

- ・おもてなしコンテンツ・ルートづくりと連動したデータ等による検証
- ・東西や南北分担解消、放置自転車など、課題解決に向けた実証やデータ取得など

道頓堀リバーフェスティバル

(地域・商店街・中央区役所)

⇒分散型イベントでの回遊促進

11/
12,13

○リバーフェスティバルで回遊

・11/12～13開催の道頓堀リバーフェスティバル2022にあわせて、駅・なんば駅前広場からイベント会場への回遊
(とんぼりリバーウォーク、YESシアターほか)

○ARスポットで回遊

- ・ミナミ商店街や観光名所でのARスポットの設置（音声ガイドやVR動画で紹介）
- ・ARスポットをめぐるまちあるき企画



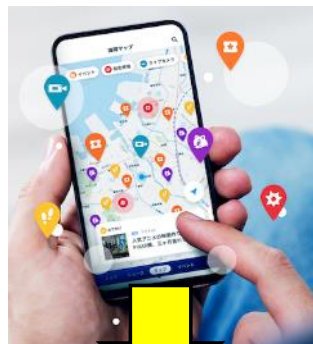
ICT技術によるデータ取得

① 携帯 人流データ (KDDI Location Analyzer)



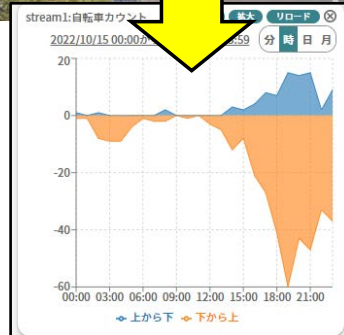
携帯電話の位置情報
データで、人の流れや
移動、滞在時間などを
把握

② スマホアプリ 人流データ (unerry)



同意が得られたスマホ
アプリユーザーの位置
情報データで、人の流
れや属性を把握

③ AIカメラ 人流データ (商店街／大阪市)



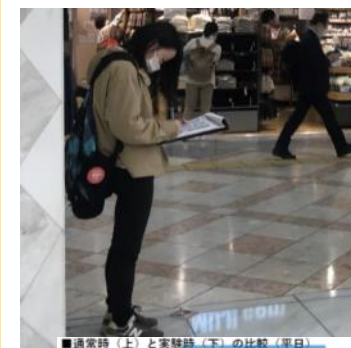
人流をAIカメラで取得
し、個人が特定されな
い形で解析、通行量な
どを把握

④ 空間調査解析 データ (Space Syntax Japan)



道路の形やつながり、
沿道の使い方など…ま
ちの空間特性を可視化
し分析する

⑤ 研究調査 データ (大阪公立大学)



学生の研究として滞在
や回遊など多角的な調
査・分析を行う

商店街・エリマネ団体

産官学の連携

大阪市

大阪公立大学

データベンダー
調査機関・コンサルタント

②一息つける やすめる場所づくり

- ・御堂筋・なんば駅前広場の道路空間再編と滞在・休憩空間づくり
- ・道頓堀リバーウォークの活用
- ⇒回遊の延伸、消費行動へつなげる

④行きたい、歩いて楽しい 商店街づくり

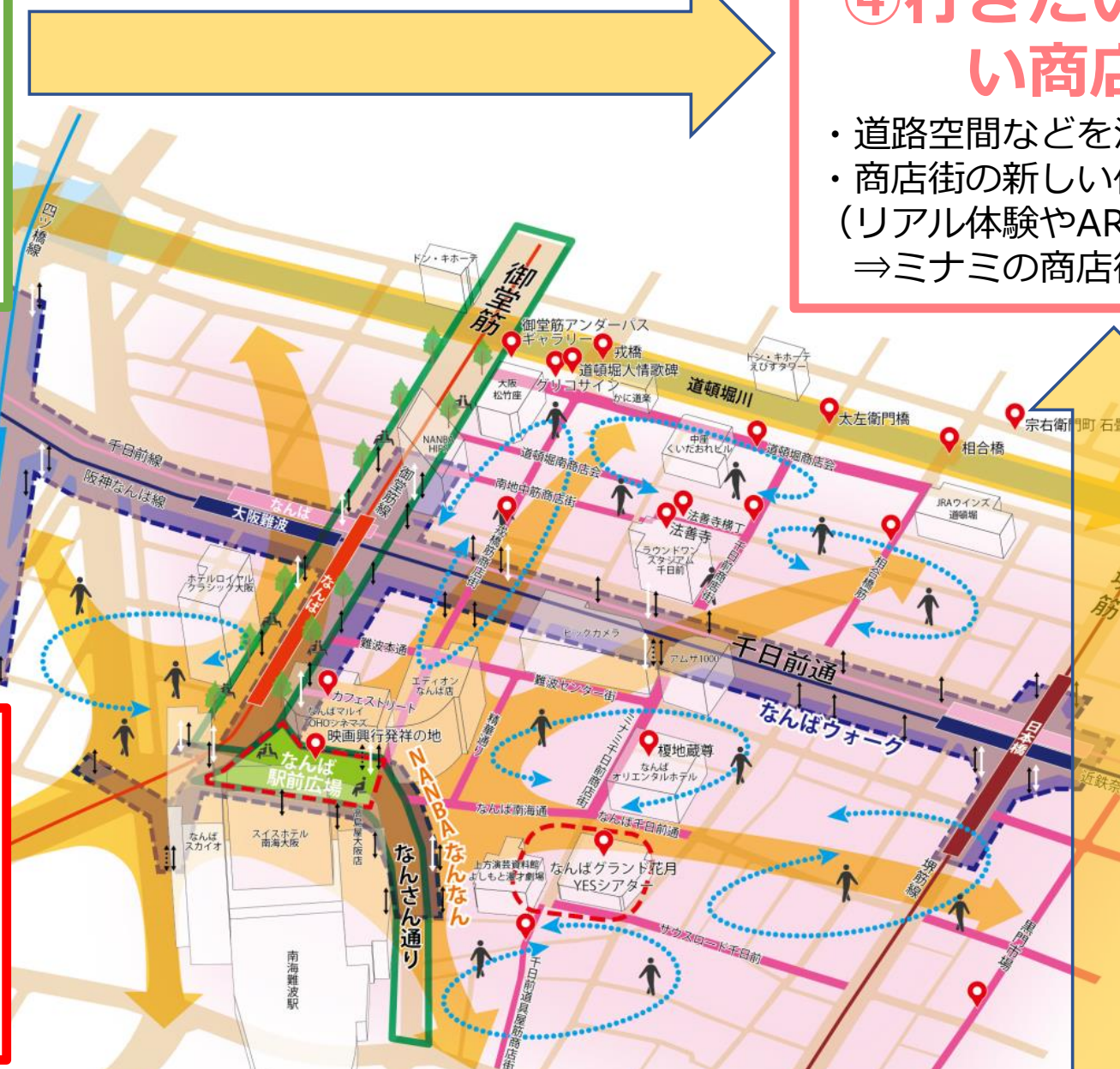
- ・道路空間などを活用
- ・商店街の新しい体験・コンテンツづくり
(リアル体験やARなど)
- ⇒ミナミの商店街で楽しくお買い物

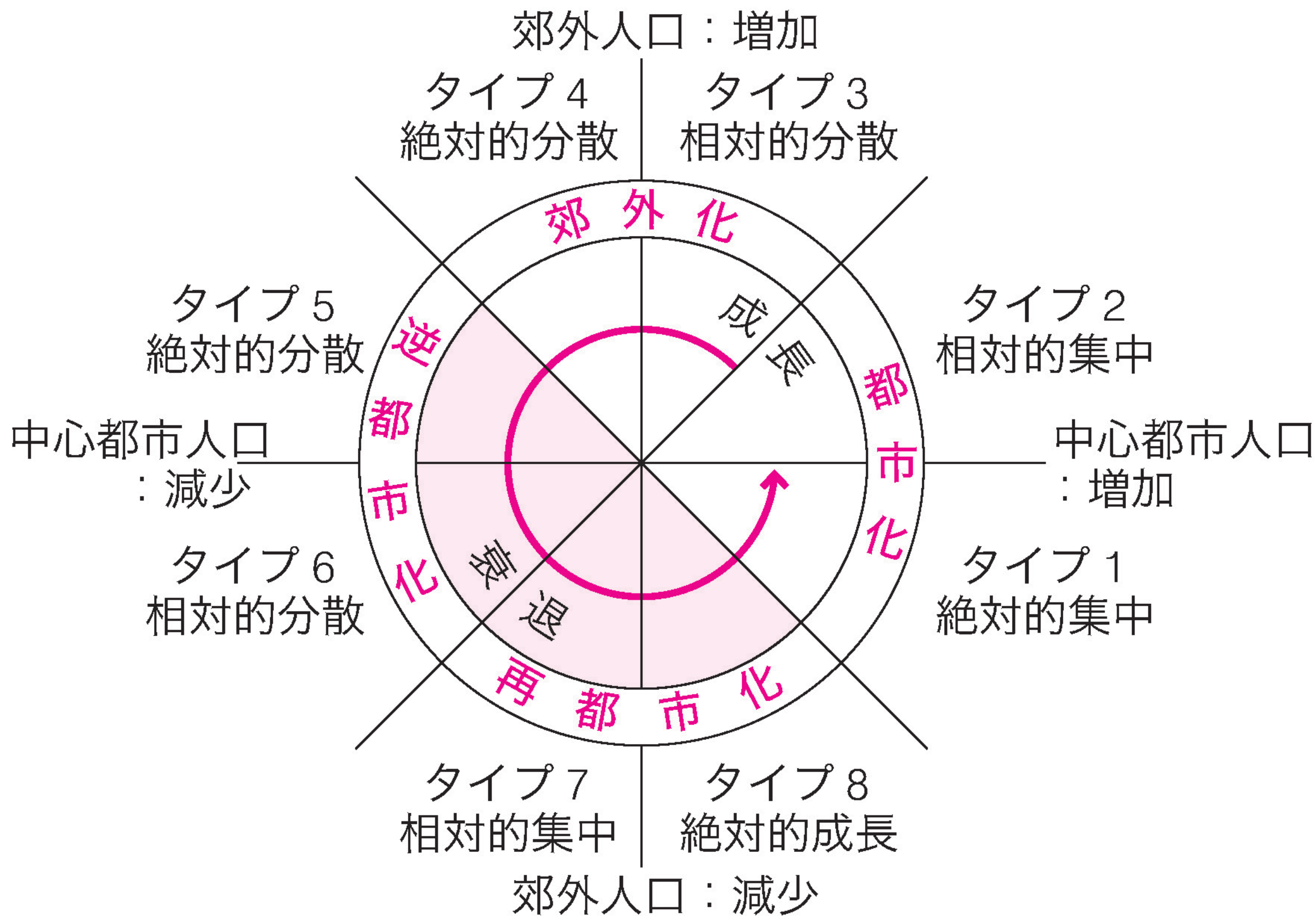
①おもてなし、回遊の ゲートづくり

- ・南海なんば駅・なんば駅前広場のおもてなし空間ゲートから回遊へ
- ・駅からサインや観光案内・情報提供の整備 ⇒駅から次の行動を促す

③歩きやすい、動きやす い街づくり

- ・地下・地上や南北の動き・分断の改善
- ・東西の通りの魅力アップ
- ・移動手段・モビリティや情報の改善
- ⇒できるだけ地上に上げる、動きやすく





L. H. Klaassen

図 1・14 都市の発展段階モデル

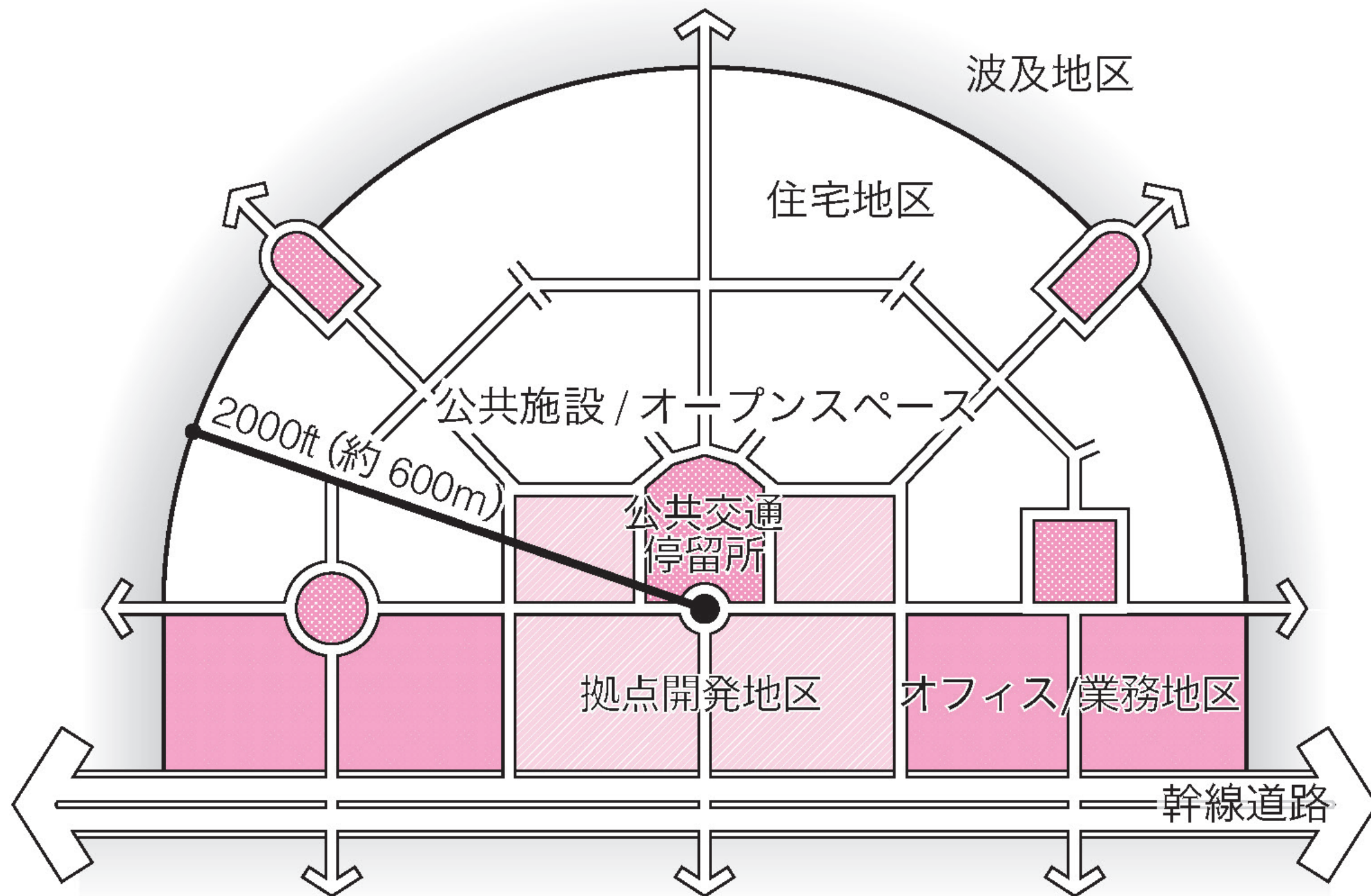


図 1・7 TOD のダイアグラム (出典：ピーター・カルソープ (倉田直道, 倉田洋子訳)『次世代のアメリカの都市づくりーニューアーバニズムの手法』, 学芸出版社、2004 を基に筆者作成)

世界の駅 乗降者数ランキング

…日本の駅
…関西の駅

順位	駅名	国・地域	乗降人員/日	順位	駅名	国・地域	乗降人員/日
1	新宿駅	日本・東京	351万人	11	パリ北駅	フランス・パリ	92万人
2	渋谷駅	日本・東京	310万人	12	高田馬場駅	日本・東京	88万人
3	池袋駅	日本・東京	257万人	13	難波駅	日本・大阪	88万人
4	大阪駅	日本・大阪	230万人	14	新橋駅	日本・東京	86万人
5	横浜駅	日本・神奈川	216万人	15	秋葉原駅	日本・東京	71万人
6	北千住駅	日本・東京	149万人	16	天王寺駅	日本・大阪	70万人
7	東京駅	日本・東京	115万人	17	三ノ宮駅	日本・兵庫	67万人
8	名古屋駅	日本・愛知	114万人	18	ターナー駅	インド・ターナー	65万人
9	ハオラ駅	インド・コルカタ	100万人	19	大宮駅	日本・埼玉	65万人
10	品川駅	日本・東京	98万人	20	京都駅	日本・京都	65万人

⇒ 日本は世界最先端のTOD（Transit-Oriented Development）国家である

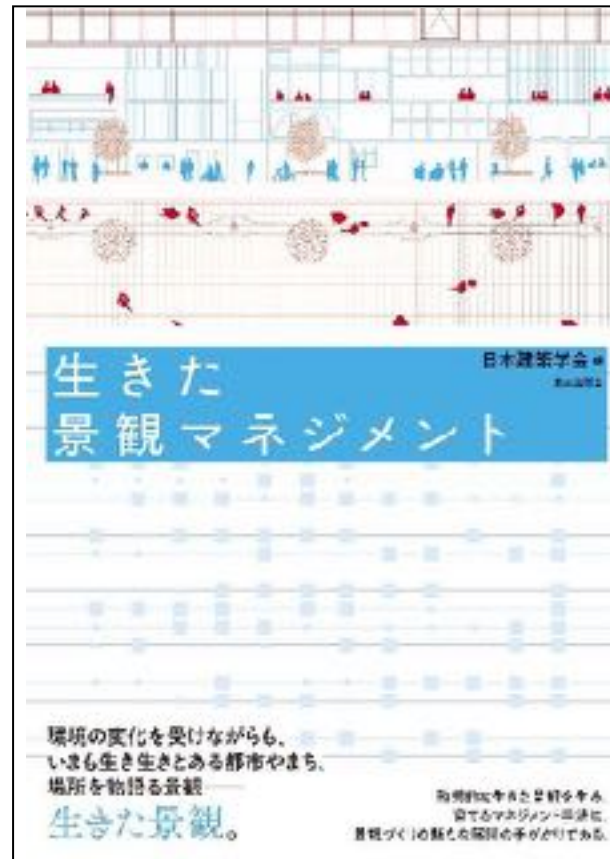
※隣接する乗り継ぎ駅も含めた利用者の総数 ※コロナ前最新の数字を採用

多様な関係者が連携して進める鉄道沿線まちづくりへの期待

- 都市の更新期という「今」というタイミングを逃さない
妥協せず、ありたい、あるべき姿をしっかりと描く
- 世界屈指のTOD都市圏であることを強みとした
持続可能な世界最先端都市圏再生モデル」を構築
- 自治体や境界を超えた階層的圏域の将来像を描く
人、物、事、情報、暮らし主体の未来をデザイン
- 多様な関係者、公民学連携など共創の仕組みづくり
プラットフォーム型まちづくり、エリアマネジメント
- データを共有し、社会実験などを通じて、確かな手がかかり
と信頼のもとで、まちづくりを進める基盤を構築する



都市を変える水辺アクション
(学芸出版社)



生きた景観マネジメント
(鹿島出版会)



生きた建築 大阪
(140B)



生きた建築ミュージアム
フェスティバル大阪
2023公式ガイドブック



図説 都市計画 (学芸出版社)